

注3

大学番号：私063

[平成30年度設置]

計画の区分： 学部の設置

注1

認可

駒沢女子大学 看護学部

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人駒澤学園

令和元年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 総務部

職名・氏名 部長 ヨシムラ ケイタロウ 吉村 桂太郎

電話番号 042-331-1911

（夜間） 042-331-1911

F A X 042-331-1919

e-mail jimunurse@komajo.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

・大学の設置の場合：「〇〇大学」

・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」

・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」

・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」

・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」

・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」

・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」

・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成31年4月2日付事務連絡「履行状況報告書の提出について

(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

看護学部

＜看護学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	13
4. 既設大学等の状況	14
5. 教員組織の状況	16
6. 附帯事項等に対する履行状況等	35
7. その他全般的事項	36

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人駒澤学園

(2) 大学名

駒沢女子大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒206-8511
東京都稲城市坂浜238番地

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ミツダ マサヨシ) 光田 督良 (平成28年6月)		
学長	(ミツダ マサヨシ) 光田 督良 (平成23年4月)		
学部長	(トヨダ トシエ) 豊田 淑恵 (平成30年4月)		
学科主任		(コバヤシ サユリ) 小林 小百合 (平成30年4月)	学科運営強化の為 平成30年4月1日 (30)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合(令和元年度までの5年間)ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
看護学部 看護学科 学士(看護学)	保健衛生学関係 (看護学関係)	4 年	80 人	— 年次 人	320 人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員 超過率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	80人 () []	—人 () []	80人 () []	—人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	1.04 倍	— 倍	
志願者数	579 (—) [—]	— (—) [—]	372 (—) [—]	— (—) [—]	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []			
受験者数	551 (—) [—]	— (—) [—]	358 (—) [—]	— (—) [—]	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []			
合格者数	172 (—) [—]	— (—) [—]	172 (—) [—]	— (—) [—]	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []			
B 入学者数	90 (—) [—]	— (—) [—]	78 (—) [—]	— (—) [—]	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []			
入学定員超過率 B/A	1.12		0.97										

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	対象年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	90 [—] (—)	— [—] (—)	78 [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)		
2年次	/		88 [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)		
3年次			/		/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	
4年次	/						/		/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)
計			90 [—] (—)		166 [—] (—)						— [—] (—)		— [—] (—)

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	90 人	0 人	平成30年度	0 人	— 人	
令和元年度	166 人	2 人	平成30年度	2 人	— 人	学生個人の心身に関する事情(1名)、その他(1名)
			令和元年度	0 人	— 人	
令和2年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
令和3年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
令和4年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
合計		2 人		2 人	0 人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{90} = \boxed{0} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{2}{166} = \boxed{1.2} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<看護学部 看護学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	仏教学Ⅰ	1前	2			1							
	仏教学Ⅱ	1後	2			1							
	倫理学	1前	2								兼1		
	心理学	1前	2								兼1		
	教育学	1後	2								兼1		
	社会学	1後	2								兼1		
	憲法	1前	2								兼1		
	人間と思想	1前	2								兼1		
	文学への誘い	1前	2								兼1		
	文化人類学	2前	2								兼1		
	生命倫理と法	2後	2								兼1		
	基礎科学	1前	2								兼1		
	統計学	1前	1								兼1		
	コミュニケーションの理解と技能	英語Ⅰ(リーディング)	1前	1								兼3	
		英語Ⅱ(ライティング)	1後	1								兼3	
		英語Ⅲ(リスニング)	2前	1								兼3	
		英語Ⅳ(看護のための英会話)	2後	1								兼1	
		基礎ドイツ語Ⅰ	1前	1								兼1	
		基礎ドイツ語Ⅱ	1後	1								兼1	
情報と科学/情報処理		1前	1								兼1		
言語表現演習Ⅰ		2前	1								兼1		
言語表現演習Ⅱ		2後	1								兼1		
スポーツと健康		スポーツⅠ	1前	1								兼1	
	スポーツⅡ	1後	1								兼1		
基礎ゼミ	基礎ゼミⅠ	1前	1			11	5	9	3	0			
	基礎ゼミⅡ	1後	1			11	5	9	3	0			
小計(26科目)			—	13	25	0	11	5	9	3	0	兼19	
専門基礎科目	発達心理学	2前	2									兼1	
	臨床心理学	3前	2									兼1	
	人間関係論	3前	1				1	1					
	公衆衛生学	3前	1									兼2	
	健康教育学	2後	2			1							
	疫学/保健統計Ⅰ	2後	2									兼1	
	疫学/保健統計Ⅱ	4後	2									兼1	
	保健医療福祉行政論	2前	2									兼1	
	健康と医療	人体の構造と機能Ⅰ	1前	1									兼1
		人体の構造と機能Ⅱ	1後	2									兼1
		生化学	1後	2									兼1
		臨床栄養学	2前	2									兼1
		臨床薬理学	1後	2									兼1
		臨床病態学	2前	1									兼1
		微生物学	1前	2									兼2
		疾病と治療Ⅰ(内科総論・全身疾患)	1後	2									兼4
		疾病と治療Ⅱ(外科総論・臓器別疾患)	2前	2									兼3
		疾病と治療Ⅲ(運動神経感覚器疾患)	2後	2									兼2
		疾病と治療Ⅳ(母性)	2前	1									兼3
疾病と治療Ⅴ(小児)		2前	1									兼1	
疾病と治療Ⅵ(精神障害)	2後	1									兼1		
小計(21科目)			—	27	8	0	1	1	1	0	0	兼26	

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	仏教学Ⅰ	1前	2			1							
	仏教学Ⅱ	1後	2			1							
	倫理学	1前	2									兼1	
	心理学	1前	2									兼1	
	教育学	1後	2									兼1	
	社会学	1後	2									兼1	
	憲法	1前	2									兼1	
	人間と思想	1前	2									兼1	
	文学への誘い	1前	2									兼1	
	文化人類学	2前	2									兼1	
	生命倫理と法	2後	2									兼1	
	基礎科学	1前	2									兼1	
	統計学	1前	1									兼1	
	コミュニケーションの理解と技能	英語Ⅰ(リーディング)	1前	1									兼2
		英語Ⅱ(ライティング)	1後	1									兼2
		英語Ⅲ(リスニング)	2前	1									兼2
		英語Ⅳ(看護のための英会話)	2後	1									兼1
		基礎ドイツ語Ⅰ	1前	1									兼1
		基礎ドイツ語Ⅱ	1後	1									兼1
情報と科学/情報処理		1前	1									兼1	
言語表現演習Ⅰ		2前	1									兼2	
言語表現演習Ⅱ		2後	1									兼1	
スポーツと健康		スポーツⅠ	1前	1									兼1
	スポーツⅡ	1後	1									兼1	
基礎ゼミ	基礎ゼミⅠ	1前	1			11	6	8	4	4			
	基礎ゼミⅡ	1後	1			11	6	8	6	4			
小計(26科目)			—	13	25	0	11	6	8	6	4	兼20	
専門基礎科目	発達心理学	2前	2									兼1	
	臨床心理学	3前	2									兼1	
	人間関係論	3前	1					1	1				
	公衆衛生学	3前	1									兼2	
	健康教育学	2後	2			1							
	疫学/保健統計Ⅰ	2後	2									兼1	
	疫学/保健統計Ⅱ	4後	2									兼1	
	保健医療福祉行政論	2前	2						1			兼3	
	健康と医療	人体の構造と機能Ⅰ	1前	1									兼1
		人体の構造と機能Ⅱ	1後	2									兼1
		生化学	1後	2									兼1
		臨床栄養学	2前	2									兼1
		臨床薬理学	1後	2									兼1
		臨床病態学	2前	1									兼1
		微生物学	1前	2									兼2
		疾病と治療Ⅰ(内科総論・全身疾患)	1後	2									兼13
		疾病と治療Ⅱ(外科総論・臓器別疾患)	2前	2									兼8
		疾病と治療Ⅲ(運動神経感覚器疾患)	2後	2									兼7
		疾病と治療Ⅳ(母性)	2前	1									兼2
疾病と治療Ⅴ(小児)		2前	1									兼8	
疾病と治療Ⅵ(精神障害)	2後	1									兼1		
小計(21科目)			—	27	8	0	1	2	1	0	0	兼51	

【認可時又は届出時】

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
看護の基本	看護学概論	1前	1			1							
	看護理論	2前	1			4	0	1					
	看護援助論	1通	2			2	0	2			1		
	生活援助技術	1通	2			2	0	2			1		
	フィジカルアセスメント	2前	1			1	0	2			1		
	診療・治療援助技術	2前	2			2	0	2			1		
	看護過程	2後	1			1	0	2			1		
	ライフステージと看護	母性看護学Ⅰ	2後	2			1						
		母性看護学Ⅱ	3前	2			2	1	1				
小児看護学Ⅰ		2後	2			1							
小児看護学Ⅱ		3前	2			1	1	1	1				
成人看護学Ⅰ(概論)		2前	2			2							
成人看護学Ⅱ(急性期)		2後	2			2	2	2	1				
成人看護学Ⅲ(慢性期)		3前	2			2	2	2	1				
老年看護学Ⅰ		2前	2			1							
老年看護学Ⅱ		3前	2			1		1	2				
看護の統合	精神看護学Ⅰ	2後	2				0	1					
	精神看護学Ⅱ	3前	2				0	2					
	在宅看護学Ⅰ	2後	2			1							
	在宅看護学Ⅱ	3前	2			2				1			
	地域看護学概論	1後	1									兼1	
	公衆衛生看護学概論	4前	1			1	0	1					
	地域看護活動論	3前	2			3	1	1					
	公衆衛生看護技術論	4前	2			1	0	2					
	学校保健活動論	3前	1									兼1	
	産業保健活動論	3前	1			1							
	公衆衛生看護管理論	4後	1			1	0	2					
	家族看護学	4後	1									兼1	
	感染看護学	2前	1			1							
健康と食事	3前	1					0	1			兼2		
チーム医療	4後	1			10	5	9	7					
医療安全	4後	1									兼1		
臨床実習	基礎看護学実習Ⅰ	1後	1			2	0	2			2		
	基礎看護学実習Ⅱ	2後	2			2	0	2			2		
	母性看護学実習	3後~4前	2			2	1	1					
	小児看護学実習	3後~4前	2			1	1	1	1				
	成人看護学急性期実習	3後~4前	3			1	1	1	1	1			
	成人看護学慢性期実習	3後~4前	3			1	2	1					
	老年看護学実習Ⅰ	2前	1			1		1	2			3	
	老年看護学実習Ⅱ	3後~4前	3			1		1	2				
	精神看護学実習	3後~4前	2				0	2			1		
	在宅看護学実習	3後~4前	2			2				1	1		
	看護学統合実習	4前	2			10	5	9	7				
	学校・産業保健実習	4後	2				1	0	2				
	公衆衛生看護学実習	4後	3				1	0	2				
看護の発展	看護管理学	4後	1									兼3	
	国際保健	4後	2				1						
	災害看護学	4後	2									兼1	
	看護研究Ⅰ	3後	1			6	0	0	0				
	看護研究Ⅱ	4通	2			10	5	9	3				
小計(50科目)	—	69	17	0	10	5	9	7	2		兼10		
合計(97科目)	—	109	50	0	11	5	9	7	2		兼55		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
看護の基本	看護学概論	1前	1			1							
	看護理論	2前	1			4	0	1					
	看護援助論	1通	2			2	0	2			3	兼1	
	生活援助技術	1通	2			2	0	2			3	兼1	
	フィジカルアセスメント	2前	1			1	0	2			3	兼1	
	診療・治療援助技術	2前	2			2	0	2			3	兼1	
	看護過程	2後	1			1	0	2			3	兼1	
	ライフステージと看護	母性看護学Ⅰ	2後	2			1						
		母性看護学Ⅱ	3前	2			2	1	1				
小児看護学Ⅰ		2後	2			1							
小児看護学Ⅱ		3前	2			1	1	1	1				
成人看護学Ⅰ(概論)		2前	2			2							
成人看護学Ⅱ(急性期)		2後	2			2	3	1	1				
成人看護学Ⅲ(慢性期)		3前	2			2	3	1	1				
老年看護学Ⅰ		2前	2			1							
老年看護学Ⅱ		3前	2			1		1	2				
看護の統合	精神看護学Ⅰ	2後	2				0	1					
	精神看護学Ⅱ	3前	2				0	2					
	在宅看護学Ⅰ	2後	2			1							
	在宅看護学Ⅱ	3前	2			2				1			
	地域看護学概論	1後	1									兼0	
	公衆衛生看護学概論	4前	1			1	0	1					
	地域看護活動論	3前	2			3	1	1					
	公衆衛生看護技術論	4前	2			1	0	2					
	学校保健活動論	3前	1									兼1	
	産業保健活動論	3前	1			1							
	公衆衛生看護管理論	4後	1			1	0	2					
	家族看護学	4後	1									兼1	
	感染看護学	2前	1			1							
健康と食事	3前	1					0	1			兼2		
チーム医療	4後	1			10	6	8	7					
医療安全	4後	1									兼1		
臨床実習	基礎看護学実習Ⅰ	1後	1			2	0	8	6	4		兼1	
	基礎看護学実習Ⅱ	2後	2			2	0	8	6	4		兼1	
	母性看護学実習	3後~4前	2			2	1	1					
	小児看護学実習	3後~4前	2			1	1	1	1				
	成人看護学急性期実習	3後~4前	3			1	1	0	1	1			
	成人看護学慢性期実習	3後~4前	3			1	2	1					
	老年看護学実習Ⅰ	2前	1			1		1	2			3	
	老年看護学実習Ⅱ	3後~4前	3			1		1	2				
	精神看護学実習	3後~4前	2				0	2			1		
	在宅看護学実習	3後~4前	2			2				1	1		
	看護学統合実習	4前	2			10	6	8	7				
	学校・産業保健実習	4後	2				1	0	2				
	公衆衛生看護学実習	4後	3				1	0	2				
看護の発展	看護管理学	4後	1									兼3	
	国際保健	4後	2				1						
	災害看護学	4後	2									兼1	
	看護研究Ⅰ	3後	1			6	0	0	0				
	看護研究Ⅱ	4通	2			10	6	8	3				
小計(50科目)	—	69	17	0	10	6	8	7	4		兼10		
合計(97科目)	—	109	50	0	11	6	8	7	4		兼81		

卒業要件及び履修方法

- ・教養教育科目(26科目):22単位以上(必修13単位、選択9単位以上)を修得すること。
- ・専門基礎科目(21科目):31単位以上(必修27単位、選択4単位以上)を修得すること。
- ・専門科目(50科目):75単位以上(必修69単位、選択6単位以上)を修得すること。
- ・卒業要件:単位合計128単位以上(必修109単位、選択19単位以上)を修得すること。
- ・履修科目の登録の上限:一学年において履修できる単位数は48単位以下とする。

* 保健師国家試験受験資格取得には卒業要件を満たし、教養教育科目から「憲法」「統計学」「情報と科学/情報処理」「スポーツⅠ」「スポーツⅡ」の5科目、専門基礎科目から「健康教育学」「疫学/保健統計Ⅱ」の2科目、専門科目から「公衆衛生看護学概論」「公衆衛生看護学技術論」「学校保健活動論」「産業保健活動論」「公衆衛生看護管理論」「家族看護学」「学校・産業保健実習」「公衆衛生看護学実習」「災害看護学」の9科目を修得すること。(単位数合計137単位以上)

卒業要件及び履修方法

- ・教養教育科目(26科目):22単位以上(必修13単位、選択9単位以上)を修得すること。
- ・専門基礎科目(21科目):31単位以上(必修27単位、選択4単位以上)を修得すること。
- ・専門科目(50科目):75単位以上(必修69単位、選択6単位以上)を修得すること。
- ・卒業要件:単位合計128単位以上(必修109単位、選択19単位以上)を修得すること。
- ・履修科目の登録の上限:一学年において履修できる単位数は48単位以下とする。

* 保健師国家試験受験資格取得には卒業要件を満たし、教養教育科目から「憲法」「統計学」「情報と科学/情報処理」「スポーツⅠ」「スポーツⅡ」の5科目、専門基礎科目から「健康教育学」「疫学/保健統計Ⅱ」の2科目、専門科目から「公衆衛生看護学概論」「公衆衛生看護学技術論」「学校保健活動論」「産業保健活動論」「公衆衛生看護管理論」「家族看護学」「学校・産業保健実習」「公衆衛生看護学実習」「災害看護学」の9科目を修得すること。(単位数合計137単位以上)

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	仏教学Ⅰ	1前	2			1							
	仏教学Ⅱ	1後		2		1							
	倫理学	1前		2								兼1	
	心理学	1前		2								兼1	
	教育学	1後		2								兼1	
	社会学	1後		2								兼1	
	憲法	1前		2								兼1	
	人間と思想	1前	2									兼1	
	文学への誘い	1前		2								兼1	
	文化人類学	2前		2								兼1	
	生命倫理と法	2後	2									兼1	
	基礎科学	1前		2								兼1	
	統計学	1前		1								兼1	
	コミュニケーションの理解と技能	英語Ⅰ(リーディング)	1前	1									兼2
		英語Ⅱ(ライティング)	1後	1									兼2
		英語Ⅲ(リスニング)	2前	1									兼3
		英語Ⅳ(看護のための英会話)	2後	1									兼1
		基礎ドイツ語Ⅰ	1前		1								兼1
		基礎ドイツ語Ⅱ	1後		1								兼1
		情報と科学/情報処理	1前		1								兼1
		言語表現演習Ⅰ	2前	1									兼2
		言語表現演習Ⅱ	2後		1								兼1
		スポーツと健康	スポーツⅠ	1前		1							
	スポーツⅡ		1後		1								兼1
	基礎ゼミ	基礎ゼミⅠ	1前	1			7	5	6	3	3		
		基礎ゼミⅡ	1後	1			7	5	6	4	3		
小計(26科目)		—	13	25	0	7	5	6	4	3		兼21	
専門基礎科目	健康と生活	発達心理学	2前		2								兼1
		臨床心理学	3前		2								兼1
		人間関係論	3前	1				1	1				
		公衆衛生学	3前	1									兼2
		健康教育学	2後		2		1						
		疫学/保健統計Ⅰ	2後		2								兼1
		疫学/保健統計Ⅱ	4後		2								兼1
		保健医療福祉行政論	2前		2								兼1
	健康と医療	人体の構造と機能Ⅰ	1前	1									兼1
		人体の構造と機能Ⅱ	1後	2									兼1
		生化学	1後	2									兼1
		臨床栄養学	2前	2									兼1
		臨床薬理学	1後	2									兼1
		臨床病態学	2前	1									兼1
		微生物学	1前	2									兼2
		疾病と治療Ⅰ(内科総論・全身疾患)	1後	2									兼14
		疾病と治療Ⅱ(外科総論・臓器別疾患)	2前	2									兼8
		疾病と治療Ⅲ(運動神経感覚器疾患)	2後	2									兼7
		疾病と治療Ⅳ(母性)	2前	1									兼3
		疾病と治療Ⅴ(小児)	2前	1									兼1
		疾病と治療Ⅵ(精神障害)	2後	1									兼1
小計(21科目)		—	27	8	0	1	1	1	0	0		兼44	

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	看護の基本	看護学概論	1前	1			1						
		看護理論	2前	1			4	0	1				
		看護援助論	1通	2			2	0	2		3	兼1	
		生活援助技術	1通	2			2	0	2		3	兼1	
		フィジカルアセスメント	2前	1			1	0	2		3		
		診療・治療援助技術	2前	2			2	0	2		3		
		看護過程	2後	1			1	0	2		3		
	ライフステージと看護	母性看護学Ⅰ	2後	2			1						
		母性看護学Ⅱ	3前	2			2	1	1				
		小児看護学Ⅰ	2後	2			1						
		小児看護学Ⅱ	3前	2			1	1	1	1			
		成人看護学Ⅰ(概論)	2前	2			2						
		成人看護学Ⅱ(急性期)	2後	2			2	3	1	1			
		成人看護学Ⅲ(慢性期)	3前	2			2	3	1	1			
		老年看護学Ⅰ	2前	2			1						
		老年看護学Ⅱ	3前	2			1		1	2			
	看護の統合	精神看護学Ⅰ	2後	2				0	1				
		精神看護学Ⅱ	3前	2				0	2				
		在宅看護学Ⅰ	2後	2			1						兼1
		在宅看護学Ⅱ	3前	2			2			1			
		地域看護学概論	1後	1									兼1
		公衆衛生看護学概論	4前	1				1	0	1			
		地域看護活動論	3前	2			3	1	1				
		公衆衛生看護技術論	4前	2				1	0	2			
		学校保健活動論	3前	1									兼1
		産業保健活動論	3前	1				1					
		公衆衛生看護管理論	4後	1				1	0	2			
		家族看護学	4後	1									兼1
		感染看護学	2前	1			1						
	健康と食事	3前	1					0	1			兼2	
	チーム医療	4後	1			10	6	8	7				
	医療安全	4後	1									兼1	
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1後	1			2	0	2		3	兼2	
基礎看護学実習Ⅱ		2後	2			2	0	2		3			
母性看護学実習		3後~4前	2			2	1	1					
小児看護学実習		3後~4前	2			1	1	1	1				
成人看護学急性期実習		3後~4前	3			1	1	0	1	1			
成人看護学慢性期実習		3後~4前	3			1	2	1					
老年看護学実習Ⅰ		2前	1			1		1	2				
老年看護学実習Ⅱ		3後~4前	3			1		1	2				
精神看護学実習		3後~4前	2				0	2		1			
在宅看護学実習		3後~4前	2			2			1	1			
看護学統合実習		4前	2			10	6	8	7				
学校・産業保健実習		4後	2				1	0	2				
公衆衛生看護学実習		4後	3				1	0	2				
看護の発展		看護管理学	4後	1									兼3
	国際保健	4後	2				1						
	災害看護学	4後	2									兼1	
	看護研究Ⅰ	3後	1			6	0	0	0				
	看護研究Ⅱ	4通	2			10	6	8	3				
小計(50科目)	—	69	17	0	10	6	8	7	3	兼12			
合計(97科目)	—	109	50	0	11	6	8	7	3	兼77			
卒業要件及び履修方法													
<ul style="list-style-type: none"> ・教養教育科目(26科目):22単位以上(必修13単位、選択9単位以上)を修得すること。 ・専門基礎科目(21科目):31単位以上(必修27単位、選択4単位以上)を修得すること。 ・専門科目(50科目):75単位以上(必修69単位、選択6単位以上)を修得すること。 ・卒業要件:単位合計128単位以上(必修109単位、選択19単位以上)を修得すること。 ・履修科目の登録の上限:一学年において履修できる単位数は48単位以下とする。 													
<ul style="list-style-type: none"> * 保健師国家試験受験資格取得には卒業要件を満たし、教養教育科目から「憲法」「統計学」「情報と科学/情報処理」「スポーツⅠ」「スポーツⅡ」の5科目、専門基礎科目から「健康教育学」「疫学/保健統計Ⅱ」の2科目、専門科目から「公衆衛生看護学概論」「公衆衛生看護技術論」「学校保健活動論」「産業保健活動論」「公衆衛生看護管理論」「家族看護学」「学校・産業保健実習」「公衆衛生看護学実習」「災害看護学」の9科目を修得すること。(単位数合計137単位以上) 													

- (注)
- ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 - ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・英語Ⅰ：兼任教員の配置転換等の理由により、兼任教員の配置を「兼3」→「兼2」に変更。
- ・英語Ⅱ：兼任教員の配置転換等の理由により、兼任教員の配置を「兼3」→「兼2」に変更。
- ・言語表現演習Ⅰ：授業内容の充実を図る為、兼任・兼任教員等の配置を「兼1」→「兼2」に変更。
- ・基礎ゼミⅠ：専任教員の就任辞退及び、平成30年度に着任した専任教員のみでの実施の為、教授「11」→「7」、講師「9」→「6」に修正し、更に演習補助として助手の配置を「助手0」→「助手3」に変更した。
- ・基礎ゼミⅡ：専任教員の就任辞退及び、平成30年度に着任した専任教員のみでの実施の為、教授「11」→「7」、講師「9」→「6」に修正した上で、助教の配置を「3」→「4」(H30年AC教員審査済)に変更。更に演習補助として助手の配置を「助手0」→「助手3」に変更した。
- ・教養教育科目小計：上記理由により、教授「11」→「7」、講師「9」→「6」、助教「3」→「4」、助手「0」→「3」、「兼19」→「兼21」に変更。
- ・疾病と治療Ⅰ：兼任教員の変更及び授業内容の充実を図る為、兼任教員の配置を「兼4」→「兼14」に変更。
- ・疾病と治療Ⅱ：兼任教員の変更及び授業内容の充実を図る為、兼任教員の配置を「兼3」→「兼8」に変更。
- ・疾病と治療Ⅲ：兼任教員の変更及び授業内容の充実を図る為、兼任教員の配置を「兼2」→「兼7」に変更。
- ・専門基礎科目小計：上記理由により、「兼26」→「兼44」に変更。
- ・看護援助論：授業内容の充実を図る為、助手及び兼任助手の配置を「助手1」→「助手3」、「兼0」→「兼1」に変更。
- ・生活援助技術：演習の円滑・安全な実施と授業内容の充実を図る為、助手及び兼任助手の配置を「助手1」→「助手3」、「兼0」→「兼1」に変更。
- ・フィジカルアセスメント：演習の円滑・安全な実施と授業内容の充実を図る為、助手の配置を「1」→「3」に変更。
- ・診療・治療援助技術：演習の円滑・安全な実施と授業内容の充実を図る為、助手の配置を「1」→「3」に変更。
- ・看護過程：演習の円滑・安全な実施と授業内容の充実を図る為、助手の配置を「1」→「3」に変更。
- ・成人看護学Ⅱ：教員就任辞退の理由により、准教授「2」→「3」(H29年度AC教員審査済)、講師「2」→「1」に変更。
- ・成人看護学Ⅲ：教員就任辞退の理由により、准教授「2」→「3」(H29年度AC教員審査済)、講師「2」→「1」に変更。
- ・チーム医療：教員就任辞退の理由により、准教授「5」→「6」(H29年AC教員審査済)、講師「9」→「8」に変更。
- ・基礎看護学実習Ⅰ：実習の円滑・安全な実施と授業内容の充実を図る為、助手及び兼任助手の配置を助手「2」→「3」、「兼0」→「兼2」に変更。
- ・基礎看護学実習Ⅱ：実習の円滑・安全な実施と授業内容の充実を図る為、助手の配置を「2」→「3」に追加変更。
- ・成人看護学急性期実習：教員就任辞退の理由により、准教授「0」→「1」(H29年AC教員審査済)、講師「1」→「0」に変更。
- ・看護学統合実習：教員就任辞退の理由により、准教授「5」→「6」(H29年AC教員審査済)、講師「9」→「8」に変更。
- ・看護研究Ⅱ：教員就任辞退の理由により専任教員の配置を、准教授「5」→「6」(H29年AC教員審査済)、講師「9」→「8」に変更。
- ・専門科目小計：上記理由により、准教授「5」→「6」、講師「9」→「8」、助手「2」→「3」、「兼10」→「兼12」に変更。
- ・合計：上記理由により、准教授「5」→「6」、講師「9」→「8」、助手「2」→「3」、「兼55」→「兼77」に変更。

【令和元年度】

- ・英語Ⅰ：兼任教員の配置転換等の理由により、兼任教員の配置を「兼3」→「兼2」に変更。
- ・英語Ⅱ：兼任教員の配置転換等の理由により、兼任教員の配置を「兼3」→「兼2」に変更。
- ・英語Ⅲ：兼任教員の配置転換等の理由により、兼任・兼任教員の配置を「兼3」→「兼2」に変更。
- ・言語表現演習Ⅰ：授業内容の充実を図る為、兼任・兼任教員等の配置を「兼1」→「兼2」に変更。
- ・基礎ゼミⅠ：専任教員の就任辞退の理由により専任教員の配置を、准教授「5」→「6」、講師「9」→「8」に変更した上で、助教の配置を「助教3」→「助教4」(H30年AC教員審査済)に変更。更に演習補助として助手の配置を「助手0」→「助手4」に変更した。
- ・基礎ゼミⅡ：専任教員の就任辞退の理由により専任教員の配置を、准教授「5」→「6」、講師「9」→「8」に変更した上で、助教の配置を「助教3」→「助教6」(内、1名はH30年AC教員審査済・残り2名は本年度6月のAC教員審査提出予定)に変更。更に演習補助として助手の配置を「助手0」→「助手4」に変更した。
- ・教養教育科目小計：上記理由により、准教授「5」→「6」、講師「9」→「8」、助教「3」→「6」、助手「0」→「4」、「兼19」→「兼20」に変更。
- ・保健医療福祉行政論：兼任教員の就任辞退の理由により専任教員の配置を、准教授「0」→「1」(H30AC教員審査済)に変更し、更に授業内容の充実を図る為、兼任教員を「兼1」→「兼3」に変更。
- ・疾病と治療Ⅰ：兼任教員の変更及び授業内容の充実を図る為、兼任教員の配置を「兼4」→「兼13」に変更。
- ・疾病と治療Ⅱ：兼任教員の変更及び授業内容の充実を図る為、兼任教員の配置を「兼3」→「兼8」に変更。
- ・疾病と治療Ⅲ：兼任教員の変更及び授業内容の充実を図る為、兼任教員の配置を「兼2」→「兼7」に変更。
- ・疾病と治療Ⅳ：兼任教員の変更及び授業内容の充実を図る為、兼任教員の配置を「兼3」→「兼2」に変更。

- ・ 疾病と治療Ⅴ：授業内容の充実を図る為、兼任教員の配置を「兼1」→「兼8」に変更。
- ・ 専門基礎科目小計：上記理由により、准教授「1」→「2」、「兼26」→「兼51」に変更。
- ・ 看護援助論：授業内容の充実を図る為、助手及び兼任助手の配置を「助手1」→「助手3」、「兼0」→「兼1」に変更。
- ・ 生活援助技術：演習の円滑・安全な実施と授業内容の充実を図る為、助手及び兼任助手の配置を「助手1」→「助手3」、「兼0」→「兼1」に変更。
- ・ フィジカルアセスメント：演習の円滑・安全な実施を図る為、演習補助として助手及び兼任助手の配置を「助手1」→「助手3」、「兼0」→「兼1」に変更。
- ・ 診療・治療援助技術：演習の円滑・安全な実施を図る為、演習補助として助手及び兼任助手の配置を「助手1」→「助手3」、「兼0」→「兼1」に変更。
- ・ 看護過程：演習の円滑・安全な実施を図る為、演習補助として助手及び兼任助手の配置を「助手1」→「助手3」、「兼0」→「兼1」に変更。
- ・ 成人看護学Ⅱ：教員就任辞退の理由により専任教員の配置を、准教授「2」→「3」（H29年度AC教員審査済）、講師「2」→「1」に変更。
- ・ 成人看護学Ⅲ：教員就任辞退の理由により専任教員の配置を、准教授「2」→「3」（H29年度AC教員審査済）、講師「2」→「1」に変更。
- ・ 地域看護学概論：保健師教育課程の基礎となる科目の為、専任教員に担当を交代し、准教授「0」→「1」（H30年度AC教員審査済）、「兼1」→「兼0」に変更。
- ・ チーム医療：教員就任辞退の理由により専任教員の配置を、准教授「5」→「6」（H29年AC教員審査済）、講師「9」→「8」に変更。
- ・ 基礎看護学実習Ⅰ：領域間での看護技術教育の共通理解を深め、教育内容を充実させる為、講師以下の専任教員を本年度のAC教員審査で追加し、更に実習の円滑・安全な実施と授業内容の充実を図る為、助手及び兼任助手を追加する。※但し領域外担当教員は選抜する。「講師2」→「講師8」（内、6名は本年度6月AC教員審査予定）、「助教0」→「助教6」（本年度6月AC教員審査予定）、「助手2」→「助手4」、「兼0」から「兼1」。
- ・ 基礎看護学実習Ⅱ：領域間での看護技術教育の共通理解を深め、教育内容を充実させる為、講師以下の専任教員を本年度のAC教員審査で追加し、更に実習の円滑・安全な実施と授業内容の充実を図る為、助手及び兼任助手を追加する。※但し領域外担当教員は選抜する。「講師2」→「講師8」（内、6名は本年度6月AC教員審査予定）、「助教0」→「助教6」（本年度6月AC教員審査予定）、「助手2」→「助手4」、「兼0」から「兼1」。
- ・ 成人看護学急性期実習：教員就任辞退の理由により、准教授「0」→「1」（H29年AC教員審査済）、講師「1」→「0」に変更。
- ・ 老年看護学実習Ⅰ：実習の円滑・安全な実施と授業内容の充実を図る為、助手を「0」→「3」に変更。
- ・ 看護学統合実習：教員就任辞退の理由により専任教員の配置を、准教授「5」→「6」（H29年AC教員審査済）、講師「9」→「8」に変更。
- ・ 看護研究Ⅱ：教員就任辞退の理由により専任教員の配置を、准教授「5」→「6」（H29年AC教員審査済）、講師「9」→「8」に変更。
- ・ 専門科目小計：上記理由により、准教授「5」→「6」、講師「9」→「8」、助手「2」→「4」に変更。
- ・ 合計：上記理由により、准教授「5」→「6」、講師「9」→「8」、助手「2」→「4」、「兼55」→「兼81」に変更。

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
66 科目	31 科目	— 科目	97 科目	66 科目 [0]	30 科目 [△1]	— 科目 [—]	96 科目 [△1]	未開講科目1

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目 **該当なし**

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目 **該当なし**

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目 (3) と廃止科目 (4) の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計 (A)}} = \frac{0}{97} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	校地等の一部は駒沢女子短期大学と共用			
	校舎敷地	1,867.94 m ²	140,991.11 m ²	8,771.79 m ²	151,630.84 m ²				
	運動場用地	0 m ²	12,574.38 m ²	0 m ²	12,574.38 m ²				
	小 計	1,867.94 m ²	153,565.49 m ²	8,771.79 m ²	164,205.22 m ²				
	そ の 他	0 m ²	36,595.26 m ²	0 m ²	36,595.26 m ²				
	合 計	1,867.94 m ²	190,160.75 m ²	8,771.79 m ²	200,800.48 m ²				
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	校舎の一部は、駒沢女子短期大学と共用			
		4,279.81 m ² (4,279.81 m ²)	22,859.06 m ² (22,859.06 m ²)	19,797.95 m ² (19,797.95 m ²)	46,936.82 m ² (46,936.82 m ²)				
(3) 教 室 等		講 義 室 45 室	演 習 室 20 室	実験実習室 37 室	情報処理学習施設 3 室 (補助職員 2人)	語学学習施設 1 室 (補助職員 0人)	教室等の一部は、駒沢女子短期大学と共用		
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数					
		看護学部 看護学科		32 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体での共用分を含む 図書 662冊 購入による変更のため (元)	
	看護学部	4,523 [139] 4,048 [132] (4,523 [139]) (4,048 [132])	38 [11] (38 [11])	4 [2] 4 [1] (4 [2]) (-4 [1])	153 125 (153) (-125)	5,194 5,094 5,194 (-5,094)	272 (272)		
	計	4,523 [139] 4,048 [132] (4,523 [139]) (4,048 [132])	38 [11] (38 [11])	4 [2] 4 [1] (4 [2]) (-4 [1])	153 125 (153) (-125)	5,194 5,094 5,194 (-5,094)	272 (272)		
(6) 図 書 館		面 積 4,489 m ²	閱 覧 座 席 数 325席	収 納 可 能 冊 数 237,000冊	駒沢女子短期大学と共用				
(7) 体 育 館		面 積 1,726 m ²	体育館以外のスポーツ施設の概要 テニスコート 3面		屋外プール			駒沢女子短期大学と共用	
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員1人当たり研究費等	360千円	360千円	図書購入費	21,894千円	2,500千円	2,500千円	
	共同研究費等	100千円	100千円	設備購入費	206,026千円	300千円	300千円		
	学生1人当たり納付金	第1年次 1,800千円	第2年次 1,600千円	第3年次 1,600千円	第4年次 1,600千円	第5年次 — 千円	第6年次 — 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等							

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成30年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(30)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	駒沢女子大学									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	年度	年度	年度	
人文学部	4	—	3年次30	—	—	—	—	平成5	—	平成30年度より学生募集停止(編入学は令和2年度より募集停止)
日本文化学科	4	—	3年次10	—	学士(日本文化)	—	—	平成5	東京都稲城市坂浜238番地	平成30年度より学生募集停止(編入学は令和2年度より募集停止)
国際文化学科	4	—	3年次20	—	学士(国際文化)	—	—	平成5	同上	平成30年度より学生募集停止(編入学は令和2年度より募集停止)
人間関係学科	4	—	—	—	学士(人間関係)	—	—	平成12	同上	平成30年度より学生募集停止
心理学科	4	—	—	—	学士(心理学)	—	—	平成25	同上	平成30年度より学生募集停止
住空間デザイン学科	4	—	—	—	学士(住空間デザイン)	—	—	平成14	同上	平成30年度より学生募集停止
メディア表現学科	4	—	—	—	学士(メディア表現)	—	—	平成14	同上	平成30年度より学生募集停止
人間総合学群	4	370	3年次30	1,540	—	1.24	—	平成30	—	編入は、令和2年度より学生募集
人間文化学類	4	170	3年次20	720	学士(日本文化)(人間関係)(英語コミュニケーション)	1.21	—	平成30	東京都稲城市坂浜238番地	編入は、令和2年度より学生募集
観光文化学類	4	60	3年次10	260	学士(観光文化)	1.28	—	平成30	同上	編入は、令和2年度より学生募集
心理学類	4	80	—	320	学士(心理学)	1.30	—	平成30	同上	
住空間デザイン学類	4	60	—	240	学士(住空間デザイン)	1.23	—	平成30	同上	
人間健康学部	4	80	—	320	—	1.05	—	平成21	—	
健康栄養学科	4	80	—	320	学士(健康栄養)	1.05	—	平成21	東京都稲城市坂浜238番地	
看護学部	4	80	—	320	—	1.04	—	平成30	—	
看護学科	4	80	—	320	学士(看護学)	1.04	—	平成30	東京都稲城市坂浜238番地	
大学全体	4	530	30	2,180	—	1.11	—	—	—	

大学の名称		駒 沢 女 子 大 学								備 考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
人文科学研究科	年	人	年次 人	人		倍				
仏教文化専攻	2	5	—	10	修士 (文学)	0.20	—	平成14	東京都稲城市坂浜238番地	
臨床心理学専攻	2	10	—	20	修士 (心理学)	0.45	—	平成15	同上	
大学院全体	2	15	—	30	—	0.36	—	—	—	
大学の名称		駒 沢 女 子 短 期 大 学								備 考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
保育科	年	人	年次 人	人		倍				
短期大学全体	2	130	—	260	短期大学士 (保育)	0.76	—	昭和40	東京都稲城市坂浜238番地	
短期大学全体	2	130	—	260	—	0.76	—	—	—	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<看護学部 看護学科>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	安藤 郁子 (58) <平成30年4月> 修士(教育学)※	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 看護理論 看護援助論 生活援助技術 フィジカルアセスメント 診療・治療援助技術 看護過程 チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
		安藤 嘉則 (60) <平成30年4月> 文学修士※	仏教学Ⅰ 仏教学Ⅱ 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ
専	教授	風岡 たま代 (61) <平成31年4月> 修士(教育学)	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 成人看護学Ⅰ(概論) 成人看護学Ⅱ(急性期) 成人看護学Ⅲ(慢性期) チーム医療 成人看護学慢性期実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
		柁淵(廣瀬)恵美子 (60) <平成30年4月> 博士(看護学)	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 看護理論 母性看護学Ⅰ 母性看護学Ⅱ 地域看護活動論 チーム医療 母性看護学実習 看護学統合実習 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ
専	教授	小林 小百合 (55) <平成30年4月> 博士(保健学)	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 老年看護学Ⅰ 老年看護学Ⅱ 地域看護活動論 チーム医療 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	安藤 郁子 (58) <平成30年4月> 修士(教育学)※	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 看護理論 看護援助論 生活援助技術 フィジカルアセスメント 診療・治療援助技術 看護過程 チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
		安藤 嘉則 (60) <平成30年4月> 文学修士※	仏教学Ⅰ 仏教学Ⅱ 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ
専	教授	風岡 たま代 (60) <平成31年4月> 修士(教育学)	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 成人看護学Ⅰ(概論) 成人看護学Ⅱ(急性期) 成人看護学Ⅲ(慢性期) チーム医療 成人看護学慢性期実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
		柁淵(廣瀬)恵美子 (60) <平成30年4月> 博士(看護学)	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 看護理論 母性看護学Ⅰ 母性看護学Ⅱ 地域看護活動論 チーム医療 母性看護学実習 看護学統合実習 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ
専	教授	小林 小百合 (55) <平成30年4月> 博士(保健学)	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 老年看護学Ⅰ 老年看護学Ⅱ 地域看護活動論 チーム医療 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	安藤 郁子 (59) <平成30年4月> 修士(教育学)※	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 看護理論 看護援助論 生活援助技術 フィジカルアセスメント 診療・治療援助技術 看護過程 チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
		安藤 嘉則 (61) <平成30年4月> 文学修士※	仏教学Ⅰ 仏教学Ⅱ 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ
専	教授	風岡 たま代 (61) <平成31年4月> 修士(教育学)	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 成人看護学Ⅰ(概論) 成人看護学Ⅱ(急性期) 成人看護学Ⅲ(慢性期) チーム医療 成人看護学慢性期実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
		柁淵(廣瀬)恵美子 (61) <平成30年4月> 博士(看護学)	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 看護理論 母性看護学Ⅰ 母性看護学Ⅱ 地域看護活動論 チーム医療 母性看護学実習 看護学統合実習 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ
専	教授	小林 小百合 (56) <平成30年4月> 博士(保健学)	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 老年看護学Ⅰ 老年看護学Ⅱ 地域看護活動論 チーム医療 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	小林(物部) 優子 (55) <平成31年4月> 博士(教育学)	基礎ゼミ I 基礎ゼミ II 健康教育学 成人看護学 I (概論) 成人看護学 II (急性期) 成人看護学 III (慢性期) チーム医療 成人看護学急性期実習 看護学統合実習 看護研究 I 看護研究 II
		關 優美子 (60) <平成30年4月> 博士(学術)	基礎ゼミ I 基礎ゼミ II 在宅看護学 I 在宅看護学 II チーム医療 在宅看護学実習 看護学統合実習 看護研究 I 看護研究 II
専	教授	高橋 泉 (61) <平成31年4月> 博士(看護学)	基礎ゼミ I 基礎ゼミ II 看護理論 小児看護学 I 小児看護学 II 地域看護活動論 チーム医療 小児看護学実習 看護学統合実習 看護研究 I 看護研究 II
		豊田 淑恵 (67) <平成30年4月> 修士(文学)※	基礎ゼミ I 基礎ゼミ II 母性看護学 II チーム医療 母性看護学実習 看護学統合実習 看護研究 I 看護研究 II
専	教授	島山 とも子 (65) <平成31年4月> 博士(保健福祉学)	基礎ゼミ I 基礎ゼミ II 在宅看護学 II チーム医療 在宅看護学実習 看護学統合実習 看護研究 I 看護研究 II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	小林(物部) 優子 (54) <平成31年4月> 博士(教育学)	基礎ゼミ I 基礎ゼミ II 健康教育学 成人看護学 I (概論) 成人看護学 II (急性期) 成人看護学 III (慢性期) チーム医療 成人看護学急性期実習 看護学統合実習 看護研究 I 看護研究 II
		關 優美子 (60) <平成30年4月> 博士(学術)	基礎ゼミ I 基礎ゼミ II 在宅看護学 I 在宅看護学 II チーム医療 在宅看護学実習 看護学統合実習 看護研究 I 看護研究 II
専	教授	高橋 泉 (60) <平成31年4月> 博士(看護学)	基礎ゼミ I 基礎ゼミ II 看護理論 小児看護学 I 小児看護学 II 地域看護活動論 チーム医療 小児看護学実習 看護学統合実習 看護研究 I 看護研究 II
		豊田 淑恵 (67) <平成30年4月> 修士(文学)※	基礎ゼミ I 基礎ゼミ II 母性看護学 II チーム医療 母性看護学実習 看護学統合実習 看護研究 I 看護研究 II
専	教授	島山 とも子 (64) <平成31年4月> 博士(保健福祉学)	基礎ゼミ I 基礎ゼミ II 在宅看護学 II チーム医療 在宅看護学実習 看護学統合実習 看護研究 I 看護研究 II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	小林(物部) 優子 (55) <平成31年4月> 博士(教育学)	基礎ゼミ I 基礎ゼミ II 健康教育学 成人看護学 I (概論) 成人看護学 II (急性期) 成人看護学 III (慢性期) チーム医療 成人看護学急性期実習 看護学統合実習 看護研究 I 看護研究 II
		關 優美子 (61) <平成30年4月> 博士(学術)	基礎ゼミ I 基礎ゼミ II 在宅看護学 I 在宅看護学 II チーム医療 在宅看護学実習 看護学統合実習 看護研究 I 看護研究 II
専	教授	高橋 泉 (61) <平成31年4月> 博士(看護学)	基礎ゼミ I 基礎ゼミ II 看護理論 小児看護学 I 小児看護学 II 地域看護活動論 チーム医療 小児看護学実習 看護学統合実習 看護研究 I 看護研究 II
		豊田 淑恵 (68) <平成30年4月> 修士(文学)※	基礎ゼミ I 基礎ゼミ II 母性看護学 II チーム医療 母性看護学実習 看護学統合実習 看護研究 I 看護研究 II
専	教授	島山 とも子 (65) <平成31年4月> 博士(保健福祉学)	基礎ゼミ I 基礎ゼミ II 在宅看護学 II チーム医療 在宅看護学実習 看護学統合実習 看護研究 I 看護研究 II

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名
専	教授	堀 良子 (65) <平成30年4月> 博士(学術)
		基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 看護学概論 看護理論 看護援助論 生活援助技術 診療・治療援助技術 感染看護学 チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
専	准教授	奥井 良子 (59) <平成30年4月> 修士(臨床心理学)
		基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 人間関係論 成人看護学Ⅱ(急性期) 成人看護学Ⅲ(慢性期) チーム医療 成人看護学慢性期実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
専	准教授	武澤 千尋 (49) <平成31年4月> 修士(看護学)
		基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 公衆衛生看護学概論 地域看護活動論 公衆衛生看護技術論 産業保健活動論 公衆衛生看護管理論 チーム医療 看護学統合実習 学校・産業保健実習 公衆衛生看護学実習 看護研究Ⅱ
専	准教授	長嶋 祐子 (46) <平成30年4月> 博士(教育学)
		基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 成人看護学Ⅱ(急性期) 成人看護学Ⅲ(慢性期) チーム医療 成人看護学慢性期実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
専	准教授	水野(金子)真希 (39) <平成30年4月> 博士(保健学)
		基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 母性看護学Ⅱ チーム医療 母性看護学実習 看護学統合実習 国際保健 看護研究Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名
専	教授	堀 良子 (65) <平成30年4月> 博士(学術)
		基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 看護学概論 看護理論 看護援助論 生活援助技術 診療・治療援助技術 感染看護学 チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
専	准教授	奥井 良子 (59) <平成30年4月> 修士(臨床心理学)
		基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 人間関係論 成人看護学Ⅱ(急性期) 成人看護学Ⅲ(慢性期) チーム医療 成人看護学慢性期実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
専	准教授	武澤 千尋 (48) <平成31年4月> 修士(看護学)
		基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 公衆衛生看護学概論 地域看護活動論 公衆衛生看護技術論 産業保健活動論 公衆衛生看護管理論 チーム医療 看護学統合実習 学校・産業保健実習 公衆衛生看護学実習 看護研究Ⅱ
専	准教授	長嶋 祐子 (46) <平成30年4月> 博士(教育学)
		基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 成人看護学Ⅱ(急性期) 成人看護学Ⅲ(慢性期) チーム医療 成人看護学慢性期実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
専	准教授	水野(金子)真希 (39) <平成30年4月> 博士(保健学)
		基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 母性看護学Ⅱ チーム医療 母性看護学実習 看護学統合実習 国際保健 看護研究Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名
専	教授	堀 良子 (66) <平成30年4月> 博士(学術)
		基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 看護学概論 看護理論 看護援助論 生活援助技術 診療・治療援助技術 感染看護学 チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
専	准教授	奥井 良子 (60) <平成30年4月> 修士(臨床心理学)
		基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 人間関係論 成人看護学Ⅱ(急性期) 成人看護学Ⅲ(慢性期) チーム医療 成人看護学慢性期実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
専	准教授	武澤 千尋 (49) <平成31年4月> 修士(看護学)
		基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 公衆衛生看護学概論 地域看護活動論 公衆衛生看護技術論 産業保健活動論 公衆衛生看護管理論 チーム医療 看護学統合実習 学校・産業保健実習 公衆衛生看護学実習 看護研究Ⅱ
専	准教授	長嶋 祐子 (47) <平成30年4月> 博士(教育学)
		基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 成人看護学Ⅱ(急性期) 成人看護学Ⅲ(慢性期) チーム医療 成人看護学慢性期実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
専	准教授	水野(金子)真希 (40) <平成30年4月> 博士(保健学)
		基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 母性看護学Ⅱ チーム医療 母性看護学実習 看護学統合実習 国際保健 看護研究Ⅱ

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	山口 明子 (67) <平成30年4月> 修士(文学)
		基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 小児看護学Ⅱ チーム医療 小児看護学実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
専	講師	秋田 由美 (38) <平成30年4月> 博士(看護学)
		基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 小児看護学Ⅱ チーム医療 小児看護学実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
専	講師	門脇 淳子 (42) <平成30年4月> 修士(看護学)
		基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 看護援助論 生活援助技術 フィジカルアセスメント 診療・治療援助技術 看護過程 チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
専	講師	菊地 由美 (49) <平成30年4月> 修士(看護学)
		基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 看護援助論 生活援助技術 フィジカルアセスメント 診療・治療援助技術 看護過程 チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
専	講師	近藤 浩子 (56) <平成30年4月> 修士(健康科学)
		基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 成人看護学Ⅱ(急性期) 成人看護学Ⅲ(慢性期) チーム医療 成人看護学慢性期実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	山口 明子 (67) <平成30年4月> 修士(文学)
		基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 小児看護学Ⅱ チーム医療 小児看護学実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
専	講師	秋田 由美 (38) <平成30年4月> 博士(看護学)
		基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 小児看護学Ⅱ チーム医療 小児看護学実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
専	講師	門脇 淳子 (42) <平成30年4月> 修士(看護学)
		基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 看護援助論 生活援助技術 フィジカルアセスメント 診療・治療援助技術 看護過程 チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
専	講師	菊地 由美 (49) <平成30年4月> 修士(看護学)
		基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 看護援助論 生活援助技術 フィジカルアセスメント 診療・治療援助技術 看護過程 チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
専	講師	近藤 浩子 (56) <平成30年4月> 修士(健康科学)
		基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 成人看護学Ⅱ(急性期) 成人看護学Ⅲ(慢性期) チーム医療 成人看護学慢性期実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	山口 明子 (68) <平成30年4月> 修士(文学)
		基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 小児看護学Ⅱ チーム医療 小児看護学実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
専	講師	秋田 由美 (39) <平成30年4月> 博士(看護学)
		基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 小児看護学Ⅱ チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 小児看護学実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
専	講師	門脇 淳子 (43) <平成30年4月> 修士(看護学)
		基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 看護援助論 生活援助技術 フィジカルアセスメント 診療・治療援助技術 看護過程 チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
専	講師	菊地 由美 (50) <平成30年4月> 修士(看護学)
		基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 看護援助論 生活援助技術 フィジカルアセスメント 診療・治療援助技術 看護過程 チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
専	講師	近藤 浩子 (57) <平成30年4月> 修士(健康科学)
		基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 成人看護学Ⅱ(急性期) 成人看護学Ⅲ(慢性期) チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 成人看護学慢性期実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名
専	講師	高山 奈美 (49) <平成31年4月> 博士(看護科学) 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 母性看護学Ⅱ チーム医療 母性看護学実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
専	講師	畠山 卓也 (45) <平成31年4月> 博士(看護学) 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 精神看護学Ⅱ チーム医療 精神看護学実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
専	講師	松尾 真規子 (49) <平成30年4月> 修士(看護学) 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 人間関係論 看護理論 精神看護学Ⅰ 精神看護学Ⅱ 地域看護活動論 チーム医療 精神看護学実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
専	講師	村田 友紀子 (58) <平成31年4月> Master of Science in Nursing(米国) 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 老年看護学Ⅱ チーム医療 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
専	講師	山本 摂子 (52) <平成30年4月> 修士(教育学) 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 成人看護学Ⅱ(急性期) 成人看護学Ⅲ(慢性期) チーム医療 成人看護学急性期実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名
専	講師	高山 奈美 (49) <平成31年4月> 博士(看護科学) 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 母性看護学Ⅱ チーム医療 母性看護学実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
専	講師	畠山 卓也 (44) <平成30年4月> 博士(看護学) 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 精神看護学Ⅱ チーム医療 精神看護学実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
専	講師	松尾 真規子 (49) <平成30年4月> 修士(看護学) 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 人間関係論 看護理論 精神看護学Ⅰ 精神看護学Ⅱ 地域看護活動論 チーム医療 精神看護学実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
専	講師	村田 友紀子 (58) <平成31年4月> Master of Science in Nursing(米国) 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 老年看護学Ⅱ チーム医療 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名
専	講師	高山 奈美 (50) <平成31年4月> 博士(看護科学) 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 母性看護学Ⅱ チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 母性看護学実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
専	講師	畠山 卓也 (45) <平成30年4月> 博士(看護学) 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 精神看護学Ⅱ チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 精神看護学実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
専	講師	松尾 真規子 (50) <平成30年4月> 修士(看護学) 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 人間関係論 看護理論 精神看護学Ⅰ 精神看護学Ⅱ 地域看護活動論 チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 精神看護学実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
専	講師	村田 友紀子 (59) <平成31年4月> Master of Science in Nursing(米国) 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 老年看護学Ⅱ チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅱ

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名
専	助教	池田 絹代 (49) <平成30年4月> 修士(看護学) 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 公衆衛生看護学概論 公衆衛生看護技術論 公衆衛生看護管理論 チーム医療 看護学統合実習 学校・産業保健実習 公衆衛生看護学実習 看護研究Ⅱ
専	助教	上野 桂 (41) <平成31年4月> 修士(看護学) 成人看護学Ⅱ(急性期) 成人看護学Ⅲ(慢性期) チーム医療 成人看護学急性期実習 看護学統合実習
専	助教	大高 のぶえ (37) <令和2年4月> 修士(看護学) 公衆衛生看護技術論 公衆衛生看護管理論 チーム医療 看護学統合実習 学校・産業保健実習 公衆衛生看護学実習
専	助教	武田 藍 (37) <平成30年4月> 修士(看護学) 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 老年看護学Ⅱ チーム医療 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名
専	准教授	飯塚 麻紀 (44) <平成30年4月> 博士(看護科学) 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 成人看護学Ⅱ(急性期) 成人看護学Ⅲ(慢性期) チーム医療 成人看護学急性期実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
専	助教	池田 絹代 (49) <平成30年4月> 修士(看護学) 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 公衆衛生看護学概論 公衆衛生看護技術論 公衆衛生看護管理論 チーム医療 看護学統合実習 学校・産業保健実習 公衆衛生看護学実習 看護研究Ⅱ
専	助教	上野 桂 (41) <平成31年4月> 修士(看護学) 成人看護学Ⅱ(急性期) 成人看護学Ⅲ(慢性期) チーム医療 成人看護学急性期実習 看護学統合実習
専	助教	大高 のぶえ (35) <令和2年4月> 修士(看護学) 公衆衛生看護技術論 公衆衛生看護管理論 チーム医療 看護学統合実習 学校・産業保健実習 公衆衛生看護学実習
専	助教	武田 藍 (37) <平成30年4月> 修士(看護学) 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 老年看護学Ⅱ チーム医療 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名
専	准教授	飯塚 麻紀 (45) <平成30年4月> 博士(看護科学) 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 成人看護学Ⅱ(急性期) 成人看護学Ⅲ(慢性期) チーム医療 成人看護学急性期実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
専	助教	池田 絹代 (50) <平成30年4月> 修士(看護学) 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 公衆衛生看護学概論 公衆衛生看護技術論 公衆衛生看護管理論 チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 学校・産業保健実習 公衆衛生看護学実習 看護研究Ⅱ
専	助教	上野 桂 (42) <平成31年4月> 修士(看護学) 基礎ゼミⅡ 成人看護学Ⅱ(急性期) 成人看護学Ⅲ(慢性期) チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 成人看護学急性期実習 看護学統合実習
		後任未定 公衆衛生看護技術論 公衆衛生看護管理論 チーム医療 看護学統合実習 学校・産業保健実習 公衆衛生看護学実習
専	助教	武田 藍 (38) <平成30年4月> 修士(看護学) 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 老年看護学Ⅱ チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅱ

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名
専	助教	松戸 典文 (47) <平成30年4月> 修士(人間科学) 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 老年看護学Ⅱ 健康と食事 チーム医療 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
専	助教	宮本 さとみ (37) <平成30年4月> 修士(看護学) 在宅看護学Ⅱ チーム医療 在宅看護学実習 看護学統合実習
専	助教	弓気田 美香 (49) <平成31年4月> 修士(心理学)※ 小児看護学Ⅱ チーム医療 小児看護学実習 看護学統合実習
兼任	教授	井上 浩一 (61) <令和2年4月> 栄養学士 公衆衛生学
兼任	教授	糟谷 恵次 (64) <平成30年4月> 文学修士※ 基礎ドイツ語Ⅰ 基礎ドイツ語Ⅱ
兼任	教授	佐藤 勝重 (54) <平成30年4月> 博士(医学) 人体の構造と機能Ⅱ
兼任	教授	田中 弥生 (58) <平成31年4月> 博士(スポーツ医学) 臨床栄養学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名
専	助教	松戸 典文 (47) <平成30年4月> 修士(人間科学) 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 老年看護学Ⅱ 健康と食事 チーム医療 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
専	助教	横田 益美 (52) <平成30年4月> 修士(看護学) 基礎ゼミⅡ 在宅看護学Ⅱ チーム医療 在宅看護学実習 看護学統合実習
専	助教	弓気田 美香 (48) <平成31年4月> 修士(心理学)※ 小児看護学Ⅱ チーム医療 小児看護学実習 看護学統合実習
兼任	教授	井上 浩一 (59) <令和2年4月> 栄養学士 公衆衛生学
兼任	教授	糟谷 恵次 (65) <平成30年4月> 文学修士※ 基礎ドイツ語Ⅰ 基礎ドイツ語Ⅱ
兼任	教授	佐藤 勝重 (54) <平成30年4月> 博士(医学) 人体の構造と機能Ⅱ
兼任	講師	田中 弥生 (57) <平成31年4月> 博士(スポーツ医学) 臨床栄養学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名
専	助教	松戸 典文 (48) <平成30年4月> 修士(人間科学) 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 老年看護学Ⅱ 健康と食事 チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
専	助教	横田 益美 (53) <平成30年4月> 修士(看護学) 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 在宅看護学Ⅱ チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 在宅看護学実習 看護学統合実習
専	助教	弓気田 美香 (49) <平成31年4月> 修士(心理学)※ 基礎ゼミⅡ 小児看護学Ⅱ チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 小児看護学実習 看護学統合実習
兼任	教授	井上 浩一 (60) <令和2年4月> 栄養学士 公衆衛生学
兼任	教授	糟谷 恵次 (66) <平成30年4月> 文学修士※ 基礎ドイツ語Ⅰ 基礎ドイツ語Ⅱ
兼任	教授	佐藤 勝重 (55) <平成30年4月> 博士(医学) 人体の構造と機能Ⅱ
兼任	准教授	工藤 美香 (51) <平成31年4月> 修士(心身健康科学) 臨床栄養学

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	西村 一弘 (59) <令和2年4月> 修士(保健学)	健康と食事
兼任	教授	西山 一朗 (58) <平成30年4月> 理学博士	生化学
兼任	教授	福王 守 (52) <平成30年4月> 修士(法学)※	憲法
兼任	准教授	田邊 解 (42) <平成30年4月> 博士(体育科学)	スポーツⅡ
兼任	講師	石川 創 (36) <平成31年4月> 修士(文学)※	言語表現演習Ⅰ 言語表現演習Ⅱ
兼任	講師	Taron Plaza (48) <平成30年4月> Master of Arts in TES (米国)	英語Ⅰ(リーディング) 英語Ⅱ(ライティング) 英語Ⅲ(リスニング)
兼任	講師	Morris Jonathan Paul (39) <平成30年4月> 博士(文学)	英語Ⅰ(リーディング) 英語Ⅱ(ライティング) 英語Ⅲ(リスニング)
兼任	講師	綾城 初穂 (37) <令和2年4月> 博士(教育学)	臨床心理学
兼任	講師	倉住(五十嵐)友恵 (34) <平成30年4月> 修士(心理学)※	心理学
兼任	講師	工藤 俊 (34) <平成30年4月> 博士(言語学)	英語Ⅰ(リーディング) 英語Ⅱ(ライティング) 英語Ⅲ(リスニング)
兼任	講師	森田 晶子 (30) <令和2年4月> 学士(看護学)	学校保健活動論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	西村 一弘 (57) <令和2年4月> 修士(保健学)	健康と食事
兼任	教授	西山 一朗 (59) <平成30年4月> 理学博士	生化学
兼任	教授	福王 守 (52) <平成30年4月> 修士(法学)※	憲法
兼任	准教授	田邊 解 (42) <平成30年4月> 博士(体育科学)	スポーツⅡ
兼任	准教授	石川 創 (35) <平成31年4月> 修士(文学)※	言語表現演習Ⅰ 言語表現演習Ⅱ
兼任	講師	中尾 真樹 (54) <平成31年4月> 博士(日本語日本文学)	言語表現演習Ⅰ
兼任	講師	松山 響子 (40) <平成30年4月> 修士(文学)	英語Ⅰ(リーディング) 英語Ⅱ(ライティング)
兼任	講師	後任未定	英語Ⅲ(リスニング)
兼任	講師	綾城 初穂 (35) <令和2年4月> 博士(教育学)	臨床心理学
兼任	講師	倉住(五十嵐)友恵 (34) <平成30年4月> 修士(心理学)※	心理学
兼任	講師	工藤 俊 (35) <平成30年4月> 博士(言語学)	英語Ⅰ(リーディング) 英語Ⅱ(ライティング) 英語Ⅲ(リスニング)
兼任	講師	森田 晶子 (28) <令和2年4月> 学士(看護学)	学校保健活動論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	西村 一弘 (58) <令和2年4月> 修士(保健学)	健康と食事
兼任	教授	西山 一朗 (60) <平成30年4月> 理学博士	生化学
兼任	教授	福王 守 (53) <平成30年4月> 修士(法学)※	憲法
兼任	准教授	田邊 解 (43) <平成30年4月> 博士(体育科学)	スポーツⅡ
兼任	准教授	石川 創 (36) <平成31年4月> 修士(文学)※	言語表現演習Ⅰ 言語表現演習Ⅱ
兼任	講師	中尾 真樹 (55) <平成31年4月> 博士(日本語日本文学)	言語表現演習Ⅰ
兼任	講師	松山 響子 (41) <平成30年4月> 修士(文学)	英語Ⅰ(リーディング) 英語Ⅱ(ライティング)
兼任	講師	中川 梓 (31) <平成31年4月> 修士(文学)	英語Ⅲ(リスニング)
兼任	講師	綾城 初穂 (36) <令和2年4月> 博士(教育学)	臨床心理学
兼任	講師	倉住(五十嵐)友恵 (35) <平成30年4月> 修士(心理学)※	心理学
兼任	講師	工藤 俊 (36) <平成30年4月> 博士(言語学)	英語Ⅰ(リーディング) 英語Ⅱ(ライティング) 英語Ⅲ(リスニング)
兼任	講師	森田 晶子 (29) <令和2年4月> 学士(看護学)	学校保健活動論

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	横瀬 富美子 (49) ＜令和2年4月＞ 修士(看護学)	健康と食事
兼任	講師	杉山 倫也 (50) ＜平成30年4月＞ 修士(文学)	倫理学 生命倫理と法
兼任	講師	石橋 哲成 (70) ＜平成30年4月＞ 文学修士	教育学
兼任	講師	今尾 佳生 (53) ＜平成30年4月＞ Master of Arts in Education(米国)	社会学
兼任	講師	山口 圭介 (50) ＜平成30年4月＞ 博士(文学)	人間と思想
兼任	講師	今井 夏彦 (70) ＜平成30年4月＞ 文学修士	文学への誘い
兼任	講師	戸田 哲也 (71) ＜平成31年4月＞ 文学修士	文化人類学
兼任	講師	河野 均 (68) ＜平成30年4月＞ 農学博士	基礎科学
兼任	講師	千年 篤 (58) ＜平成30年4月＞ Ph.D.(米国)	統計学
兼任	講師	杉田 由仁 (58) ＜平成31年4月＞ 博士(教育学)	英語Ⅳ(看護のための英会話)
兼任	講師	須藤 真由美 (68) ＜平成30年4月＞ 教育学士	情報と科学/情報処理
兼任	講師	藤裡 亮二 (37) ＜平成30年4月＞ Master of Education in K-12 Education(米国)	スポーツⅠ
兼任	講師	正木 啓子 (49) ＜平成31年4月＞ 修士(人間学)	発達心理学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	横瀬 富美子 (47) ＜令和2年4月＞ 修士(看護学)	健康と食事
兼任	講師	杉山 倫也 (50) ＜平成30年4月＞ 修士(文学)	倫理学 生命倫理と法
兼任	講師	石橋 哲成 (70) ＜平成30年4月＞ 文学修士	教育学
兼任	講師	今尾 佳生 (53) ＜平成30年4月＞ Master of Arts in Education(米国)	社会学
兼任	講師	山口 圭介 (51) ＜平成30年4月＞ 博士(文学)	人間と思想
兼任	講師	今井 夏彦 (70) ＜平成30年4月＞ 文学修士	文学への誘い
兼任	講師	戸田 哲也 (70) ＜平成31年4月＞ 文学修士	文化人類学
兼任	講師	河野 均 (68) ＜平成30年4月＞ 農学博士	基礎科学
兼任	講師	千年 篤 (58) ＜平成30年4月＞ Ph.D.(米国)	統計学
兼任	講師	杉田 由仁 (57) ＜平成31年4月＞ 博士(教育学)	英語Ⅳ(看護のための英会話)
兼任	講師	須藤 真由美 (68) ＜平成30年4月＞ 教育学士	情報と科学/情報処理
兼任	講師	藤裡 亮二 (37) ＜平成30年4月＞ Master of Education in K-12 Education(米国)	スポーツⅠ
兼任	講師	尾花 真梨子 (33) ＜平成31年4月＞ 修士(教育学)	発達心理学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	横瀬 富美子 (48) ＜令和2年4月＞ 修士(看護学)	健康と食事
兼任	講師	杉山 倫也 (51) ＜平成30年4月＞ 修士(文学)	倫理学 生命倫理と法
兼任	講師	石橋 哲成 (71) ＜平成30年4月＞ 文学修士	教育学
兼任	講師	今尾 佳生 (54) ＜平成30年4月＞ Master of Arts in Education(米国)	社会学
兼任	講師	山口 圭介 (52) ＜平成30年4月＞ 博士(文学)	人間と思想
兼任	講師	今井 夏彦 (71) ＜平成30年4月＞ 文学修士	文学への誘い
兼任	講師	戸田 哲也 (71) ＜平成31年4月＞ 文学修士	文化人類学
兼任	講師	河野 均 (69) ＜平成30年4月＞ 農学博士	基礎科学
兼任	講師	千年 篤 (59) ＜平成30年4月＞ Ph.D.(米国)	統計学
兼任	講師	江澤 美月 (54) ＜平成31年4月＞ 修士(文学)	英語Ⅲ(リスニング) 英語Ⅳ(看護のための英会話)
兼任	講師	須藤 真由美 (69) ＜平成30年4月＞ 教育学士	情報と科学/情報処理
兼任	講師	藤裡 亮二 (38) ＜平成30年4月＞ Master of Education in K-12 Education(米国)	スポーツⅠ
兼任	講師	尾花 真梨子 (34) ＜平成31年4月＞ 修士(教育学)	発達心理学

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名
兼任 講師		高野 靖悟 (64) <平成31年4月> 博士(医学) 疾病と治療Ⅱ(外科総論・臓器別疾患)
兼任 講師		保刈 岳雄 (50) <平成31年4月> — 疾病と治療Ⅱ(外科総論・臓器別疾患)
兼任 講師		梅沢 武彦 (56) <平成31年4月> 博士(医学) 疾病と治療Ⅲ(運動神経感覚器疾患)
兼任 講師		松久 孝行 (51) <平成31年4月> 大学卒 疾病と治療Ⅲ(運動神経感覚器疾患)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名
兼任 講師		横川 雅敏 (31) <平成30年4月> 学士(医学) 疾病と治療Ⅰ(内科総論・全身疾患)
兼任 講師		高野 靖悟 (64) <平成31年4月> 博士(医学) 疾病と治療Ⅱ(外科総論・臓器別疾患)
兼任 講師		保刈 岳雄 (49) <平成31年4月> 博士(医学) 疾病と治療Ⅱ(外科総論・臓器別疾患)
兼任 講師		坂本 三樹 (50) <平成31年4月> 博士(医学) 疾病と治療Ⅱ(外科総論・臓器別疾患)
兼任 講師		小島 康幸 (42) <平成31年4月> 博士(医学) 疾病と治療Ⅱ(外科総論・臓器別疾患)
兼任 講師		丸島 秀樹 (46) <平成31年4月> 大学卒 疾病と治療Ⅱ(外科総論・臓器別疾患)
兼任 講師		近田 正英 (58) <平成31年4月> 博士(医学) 疾病と治療Ⅱ(外科総論・臓器別疾患)
兼任 講師		近藤 春裕 (48) <平成31年4月> 大学卒 疾病と治療Ⅱ(外科総論・臓器別疾患) 疾病と治療Ⅳ(母性)
兼任 講師		梅沢 武彦 (55) <平成31年4月> 博士(医学) 疾病と治療Ⅲ(運動神経感覚器疾患)
兼任 講師		松久 孝行 (50) <平成31年4月> 大学卒 疾病と治療Ⅲ(運動神経感覚器疾患)
兼任 講師		松岡 摩耶 (40) <平成31年4月> 大学卒 疾病と治療Ⅲ(運動神経感覚器疾患)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名
兼任 講師		横川 雅敏 (32) <平成30年4月> 学士(医学) 疾病と治療Ⅰ(内科総論・全身疾患)
兼任 講師		高野 靖悟 (64) <平成31年4月> 博士(医学) 疾病と治療Ⅱ(外科総論・臓器別疾患)
兼任 講師		保刈 岳雄 (50) <平成31年4月> 博士(医学) 疾病と治療Ⅱ(外科総論・臓器別疾患)
兼任 講師		坂本 三樹 (51) <平成31年4月> 博士(医学) 疾病と治療Ⅱ(外科総論・臓器別疾患)
兼任 講師		小島 康幸 (43) <平成31年4月> 博士(医学) 疾病と治療Ⅱ(外科総論・臓器別疾患)
兼任 講師		丸島 秀樹 (47) <平成31年4月> 大学卒 疾病と治療Ⅱ(外科総論・臓器別疾患)
兼任 講師		近田 正英 (59) <平成31年4月> 博士(医学) 疾病と治療Ⅱ(外科総論・臓器別疾患)
兼任 講師		近藤 春裕 (49) <平成31年4月> 大学卒 疾病と治療Ⅱ(外科総論・臓器別疾患) 疾病と治療Ⅳ(母性)
兼任 講師		梅沢 武彦 (56) <平成31年4月> 博士(医学) 疾病と治療Ⅲ(運動神経感覚器疾患)
兼任 講師		松久 孝行 (51) <平成31年4月> 大学卒 疾病と治療Ⅲ(運動神経感覚器疾患)
兼任 講師		大橋 洋之 (38) <令和元年9月> 大学卒 疾病と治療Ⅲ(運動神経感覚器疾患)

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等
担当授業科目名		
兼任 講師		玉井 洋一 (82) <平成31年4月> 医学博士
		疾病と治療VI(精神障害)
兼任 講師		土屋 陽子 (64) <平成30年4月> 修士(看護学)
		地域看護学概論
兼任 講師		高見 紀子 (48) <令和3年4月> 修士(看護学)
		家族看護学
兼任 講師		村上 弘之 (55) <令和3年4月> 博士(医学)
		医療安全
兼任 講師		本館 教子 (61) <令和3年4月> —
		看護管理学
兼任 講師		堤 妙子 (56) <令和3年4月> 修士(看護マネジメント学)
		看護管理学
兼任 講師		久永 加代子 (60) <令和3年4月> —
		看護管理学
兼任 講師		長岡 信 (45) <令和3年4月> 学士(教養学)
		災害看護学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等
担当授業科目名		
兼任 講師		玉井 洋一 (82) <平成31年4月> 医学博士
		疾病と治療VI(精神障害)
兼任 講師		土屋 陽子 (64) <平成30年4月> 修士(看護学)
		地域看護学概論
兼任 講師		高見 紀子 (45) <令和3年4月> 修士(看護学)
		家族看護学
兼任 講師		村上 弘之 (52) <令和3年4月> 博士(医学)
		医療安全
兼任 講師		本館 教子 (58) <令和3年4月> —
		看護管理学
兼任 講師		堤 妙子 (53) <令和3年4月> 修士(看護マネジメント学)
		看護管理学
兼任 講師		久永 加代子 (57) <令和3年4月> —
		看護管理学
兼任 講師		長岡 信 (42) <令和3年4月> 学士(教養学)
		災害看護学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等
担当授業科目名		
兼任 講師		絹巻 暁子 (40) <平成31年4月> 博士(医学)
		疾病と治療V(小児)
兼任 講師		仁後 綾子 (40) <平成31年4月> 大学卒
		疾病と治療V(小児)
兼任 講師		伊原 兼晃 (40) <平成31年4月> 大学卒
		疾病と治療V(小児)
兼任 講師		加藤 隆 (48) <令和元年9月> 博士(医学)
		疾病と治療VI(精神障害)
兼任 講師		高見 紀子 (46) <令和3年4月> 修士(看護学)
		家族看護学
兼任 講師		村上 弘之 (53) <令和3年4月> 博士(医学)
		医療安全
兼任 講師		本館 教子 (59) <令和3年4月> —
		看護管理学
兼任 講師		堤 妙子 (54) <令和3年4月> 修士(看護マネジメント学)
		看護管理学
兼任 講師		久永 加代子 (58) <令和3年4月> —
		看護管理学
兼任 講師		長岡 信 (43) <令和3年4月> 学士(教養学)
		災害看護学

(注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。

その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。**

- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
- ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
- ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。
- ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・ 畠山卓也講師の就任を実習先との事前調整業務を行う為、平成31年4月から平成30年4月に変更。
- ・ 山本摂子講師就任辞退の為、飯塚麻紀准教授に変更「平成30年2月教員審査済」。
- ・ 宮本さとみ助教就任辞退の為、横田益美助教に変更「平成30年2月教員審査済」。
- ・ 横田益美助教の科目追加：基礎ゼミⅡ「平成30年8月教員審査済」。
- ・ 田中弥生兼担教授退職の為、兼担から兼任講師に変更。
- ・ 石川創兼担講師の昇格により、講師から准教授に変更。
- ・ 「言語表現演習Ⅰ」の授業内容の充実を図る為、中尾真樹兼任講師を追加。
- ・ Taron Plaza兼担講師、Morris Jonathan Paul兼担講師の配置転換により、「英語Ⅰ(リーディング)」「英語Ⅱ(ライティング)」の担当を松山響子兼担准教授に変更。「英語Ⅲ(リスニング)」は後任未定であるが、平成30年6月から兼任教員を公募予定。
- ・ 綾城初穂兼任講師が平成30年4月から本学に着任した為、兼担に変更。
- ・ 倉住(五十嵐)友恵兼任講師が平成30年4月から本学に着任した為、兼担に変更。
- ・ 工藤俊兼任講師が平成30年4月から本学に着任した為、兼担に変更。
- ・ 正木啓子兼任講師の就任辞退により、「発達心理学」の担当を尾花真梨子兼任講師に変更。
- ・ 今崎貴生兼任講師(医師)、山内貴雄兼任講師(医師)、三枝陽一兼任講師(医師)、柴原宏兼任講師(医師)の「疾病と治療Ⅰ(内科総論・全身疾患)」就任辞退に伴い、専門性の高い兼任教員(医師)を下記の通り追加し変更する。
八十川要平兼任講師(医師)、阪上雅史兼任講師(医師)、菅泰博兼任講師(医師)、三宅良彦兼任講師(医師)、櫻田勉兼任講師(医師)、加藤浩之兼任講師(医師)、鈴木豪兼任講師(医師)、山崎宜興兼任講師(医師)、石井聡兼任講師(医師)、勝岡由一兼任講師(医師)、河原崎宏雄兼任講師(医師)、酒井翼兼任講師(医師)、富永直人兼任講師(医師)、横川雅敏兼任講師(医師)、以上14名。
- ・ 大野勉兼任講師(医師)の「疾病と治療Ⅱ(外科総論・臓器別疾患)」就任辞退に伴い、専門性の高い兼任教員(医師)を下記の通り追加し変更する。
坂本三樹兼任講師(医師)、小島康幸兼任講師(医師)、丸島秀樹兼任講師(医師)、近田正英兼任講師(医師)、鈴木豪兼任講師(医師)、近藤春裕兼任講師(医師)、以上6名
- ・ 「疾病と治療Ⅲ(運動神経感覚器疾患)」の授業内容の充実を図る為、専門性の高い兼任教員(医師)を下記の通り追加する。
松岡摩耶兼任講師(医師)、徳田直人兼任講師(医師)、三上公志兼任講師(医師)、阿部達之兼任講師(医師)、鳥居良昭兼任講師(医師)、以上5名。
- ・ 野田芳人兼任講師(医師)の就任辞退により、「疾病と治療Ⅳ(母性)」の担当を近藤春裕兼任講師(医師)に変更。

【令和元年度】

- ・ 武澤千尋准教授の科目追加：保健医療福祉行政論、地域看護学概論「平成31年2月教員審査済」。
※「地域看護学概論」は土屋陽子兼任講師と変更する。
- ・ 秋田由美講師の科目追加：基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ※令和元年6月教員審査提出予定。
- ・ 近藤浩子講師の科目追加：基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ※令和元年6月教員審査提出予定。
- ・ 高山奈美講師の科目追加：基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ※令和元年6月教員審査提出予定。
- ・ 畠山卓也講師の就任を実習先との事前調整業務を行う為、平成31年4月から平成30年4月に変更。
畠山卓也講師の科目追加：基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ※令和元年6月教員審査提出予定。
- ・ 松尾真規子講師の科目追加：基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ※令和元年6月教員審査提出予定。
- ・ 村田友紀子講師の科目追加：基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ※令和元年6月教員審査提出予定。
- ・ 山本摂子講師就任辞退の為、飯塚麻紀准教授に変更「平成30年2月教員審査済」。
- ・ 池田絹代助教の科目追加：基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ※令和元年6月教員審査提出予定。
- ・ 上野桂助教の科目追加：基礎ゼミⅡ、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ※令和元年6月教員審査提出予定。
- ・ 大高のぶえ助教の就任辞退の為、削除。後任人事については科目開講時までには後任を充てる予定である。
- ・ 武田藍助教の科目追加：基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ※令和元年6月教員審査提出予定。
- ・ 松戸典文助教の科目追加：基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ※令和元年6月教員審査提出予定。
- ・ 宮本さとみ助教就任辞退の為、横田益美助教に変更「平成30年2月教員審査済」。
- ・ 横田益美助教の科目追加：基礎ゼミⅠ、基礎ゼミⅡ「平成30年8月教員審査済」、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ※令和元年6月教員審査提出予定。
- ・ 弓気田美香助教の科目追加：基礎ゼミⅡ、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ※令和元年6月教員審査提出予定。
- ・ 田中弥生兼担教授の退職に伴う就任辞退の為、工藤美香兼担准教授に担当を変更。
- ・ 石川創兼担講師の昇格により、講師から准教授に変更。
- ・ 「言語表現演習Ⅰ」の授業内容の充実を図る為、中尾真樹兼任講師を追加。

- ・ Taron Plaza 兼任講師、Morris Jonathan Paul 兼任講師の配置転換により、「英語Ⅰ（リーディング）」「英語Ⅱ（ライティング）」の担当を松山響子 兼任准教授に変更。「英語Ⅲ（リスニング）」は江澤美月 兼任講師、中川梓 兼任講師に変更する。
- ・ 綾城初穂 兼任講師が平成30年4月から本学に着任した為、兼任に変更。
- ・ 倉住（五十嵐）友恵 兼任講師が平成30年4月から本学に着任した為、兼任に変更。
- ・ 工藤俊 兼任講師が平成30年4月から本学に着任した為、兼任に変更。
- ・ 杉田由仁 兼任講師 就任辞退により、「英語Ⅳ（看護のための英会話）」の担当を江澤美月 兼任講師に変更。
- ・ 正木啓子 兼任講師の就任辞退により、「発達心理学」の担当を尾花真梨子 兼任講師に変更。
- ・ 鈴木秀治 兼任講師の「保健医療福祉行政論」 就任辞退に伴い、専任教員を追加した上で、より専門性の高い兼任講師を下記の通り追加し変更する。
武澤千尋 准教授、城所敏英 兼任講師（東京都南新宿検査・相談室長）、渡邊洋子 兼任講師（東京都多摩立川保健所 所長）、篠崎育子（前・南多摩保健所企画調整課 地域保健推進担当課長）
- ・ 今崎貴生 兼任講師（医師）、山内貴雄 兼任講師（医師）、三枝陽一 兼任講師（医師）、柴原宏 兼任講師（医師）の就任辞退に伴い、「疾病と治療Ⅰ（内科総論・全身疾患）」の担当を下記の通り追加し変更する。
八十川要平 兼任講師（医師）、阪上雅史 兼任講師（医師）、菅泰博 兼任講師（医師）、三宅良彦 兼任講師（医師）、櫻田勉 兼任講師（医師）、鈴木豪 兼任講師（医師）、山崎宜興 兼任講師（医師）、石井聡 兼任講師（医師）、勝岡由一 兼任講師（医師）、河原崎宏雄 兼任講師（医師）、酒井翼 兼任講師（医師）、富永直人 兼任講師（医師）、横川雅敏 兼任講師（医師）、以上13名。
- ・ 大野勉 兼任講師（医師）の就任辞退に伴い、「疾病と治療Ⅱ（外科総論・臓器別疾患）」の担当を下記の通り追加し変更する。
坂本三樹 兼任講師（医師）、小島康幸 兼任講師（医師）、丸島秀樹 兼任講師（医師）、近田正英 兼任講師（医師）、勝岡由一 兼任講師（医師）、近藤春裕 兼任講師（医師）、以上6名
- ・ 「疾病と治療Ⅲ（運動神経感覚器疾患）」の授業内容の充実を図る為、専門性の高い兼任教員（医師、理学療法士）を下記の通り追加する。
大橋洋之 兼任講師（医師）、徳田直人 兼任講師（医師）、三上公志 兼任講師（医師）、阿部達之 兼任講師（医師）、武市梨絵 兼任講師（理学療法士）、以上5名。
- ・ 野田芳人 兼任講師（医師）、吉原一 兼任講師（医師）、大野勉 兼任講師（医師）の就任辞退により、「疾病と治療Ⅳ（母性）」の担当を近藤春裕 兼任講師（医師）、田中政信 兼任講師（医師）に変更する。
- ・ 「疾病と治療Ⅴ（小児）」の授業内容の充実を図る為、専門性の高い兼任教員（医師）を下記の通り追加する。
榊原裕史 兼任講師（医師）、松島崇浩 兼任講師（医師）、幡谷浩史 兼任講師（医師）、小川優一 兼任講師（医師）、絹巻暁子 兼任講師（医師）、仁後綾子 兼任講師（医師）、伊原崇晃 兼任講師（医師） 以上7名。
- ・ 玉井洋一 兼任講師（医師）の就任辞退により、「疾病と治療Ⅵ（精神障害）」 の担当を加藤隆 兼任講師（医師）に変更する。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出 大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当すること**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時 における設置基準上の 必要教授数
12 名	6 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数【大学】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	教授	准教授	講師	助教	計 (B)
11	5	9	7	32	11	6	8	6	31
(6)	(4)	(6)	(4)	(20)					
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	教授	准教授	講師	助教	計 (D)
11	6	8	6	31	11	6	8	7	32
[-]	[+ 1]	[Δ 1]	[Δ 1]	[Δ 1]	[-]	[+ 1]	[Δ 1]	[-]	[-]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65 歳	4 名	4 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{31}{32} = \boxed{96.87} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{4}{31} = \boxed{12.9} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
1	講師	山本 摂子	H29.10	必修	基礎ゼミⅠ	①	H29.10 一身上の都合により就任辞退（30）						
				必修	基礎ゼミⅡ	①							
				必修	成人看護学Ⅱ（急性期）	①							
				必修	成人看護学Ⅲ（慢性期）	①							
				選択	チーム医療	①							
				必修	成人看護学急性期実習	①							
				必修	看護学統合実習	①							
2	助教	宮本 さとみ	H29.04	必修	在宅看護学Ⅱ	①	H29.04 一身上の都合により就任辞退（30）						
				選択	チーム医療	①							
				必修	在宅看護学実習	①							
				必修	看護学統合実習	①							
3	助教	大高 のぶえ	H31.04	選択	公衆衛生看護技術論	③	H31.04 家庭の事情により就任辞退（31）						
				選択	公衆衛生看護管理論	③							
				選択	チーム医療	③							
				必修	看護学統合実習	③							
				選択	学校・産業保健実習	③							
				選択	公衆衛生看護学実習	③							
合計（D）					後任補充状況の集計（E）								
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）				
3	人	必修	11	科目	必修	10	科目	必修	0	科目	必修	1	科目
		選択	7	科目	選択	2	科目	選択	0	科目	選択	5	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	18	科目	計	12	科目	計	0	科目	計	6	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

該当なし

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
合計（F）					後任補充状況の集計（G）								
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）				
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)			後任補充状況の集計 (E) + (G)					
辞任等した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
3 人	必修	11 科目	必修	10 科目	必修	0 科目	必修	1 科目
	選択	7 科目	選択	2 科目	選択	0 科目	選択	5 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	18 科目	計	12 科目	計	0 科目	計	6 科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計 (D) + (F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画 (A)}} = \frac{3}{32} = \boxed{9.37} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況
該当なし

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
合計			後任補充状況の集計						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0 人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	
	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	
	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

山本摂子講師は平成30年4月の就任予定であったが、平成29年10月、一身上の都合により就任辞退となった。当該教員は、1年次「基礎ゼミⅠ」「基礎ゼミⅡ」、2年次「成人看護学Ⅱ(急性期)」、3年次「成人看護学Ⅲ(慢性期)」、3～4年次「成人看護学急性期実習」、4年次「チーム医療」「看護学統合実習」「看護研究Ⅱ」の科目を担当予定であった。その為、後任補充として、平成30年4月に飯塚麻紀准教授が就任した。飯塚麻紀准教授は平成30年2月のAC教員資格審査にて、職位(准教授)適格並びに、担当授業科目「基礎ゼミⅠ」「基礎ゼミⅡ」「成人看護学Ⅱ(急性期)」「成人看護学Ⅲ(慢性期)」「成人看護学急性期実習」「チーム医療」「看護学統合実習」「看護研究Ⅱ」について「可」の判定を受けている。平成30年4月の開学にあわせての就任となった為、学生へは開学時に配付したシラバス・時間割表において周知を行った。

宮本さとみ助教は平成30年4月の就任予定であったが、平成29年4月、一身上の都合により就任辞退となった。当該教員は、3年次「在宅看護学Ⅱ」、3年次～4年次「在宅看護学実習」、4年次「チーム医療」「看護学統合実習」の科目を担当予定であった。その為、後任補充として、平成30年4月に横田益美助教が就任した。横田益美助教は平成30年2月のAC教員資格審査にて、職位(助教)適格並びに、担当授業科目「在宅看護学Ⅱ」「在宅看護学実習」「チーム医療」「看護学統合実習」について「可」の判定を受けている。平成30年4月の開学にあわせての就任となった為、学生へは開学時に配付したシラバス・時間割表において周知を行った。

大高のぶえ助教は令和2年4月の就任予定であったが、平成31年4月、家庭の事情により就任辞退となった。当該教員の担当科目は全て4年次(令和3年)開講科目である為、後任人事については科目開講時まで後任を充てる予定である。学生への周知は開講年度にシラバスまた、新年度オリエンテーションで周知を行う。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	履 行 状 況	今後の 実施計画
認 可 時 (29年)	保健師教育課程を希望する学生に対する履修指導については、学生に不利益が生じないように履修指導（履修科目や選抜方法の説明）を早期（入学時点等）に行うよう努めること。	留意事項	<p>【平成30年度】 新入生ガイダンス期間中、平成30年4月4日（水）の教務関連の説明において入学時配付資料の「履修ガイド2018(P.41)」を指し示しながら、保健師課程の履修科目と具体的な選抜方法について説明した。 さらに看護師教育課程と保健師教育課程の履修計画表を配付し、保健師教育課程を希望する学生の履修に不利益を生じないように履修指導を実施した。</p> <p>【令和元年度】 入学時に配付する履修ガイドの内容の見直しを行い、保健師教育課程に該当する記述を学生に分かりやすく整理した（※別添資料1）。平成31年4月4日（木）の新入生オリエンテーション時（※別添資料2）に履修ガイドの当該ページを元に、保健師教育課程の履修科目と具体的な選抜方法について説明した。2年生においても、平成31年4月1日（月）の新年度オリエンテーションで前述について改めて説明を行った。また、今年度も継続して学生全員に履修計画表（※別添資料3）を配付し保健師教育課程を希望する学生の履修に不利益を生じないように履修指導を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・別添資料1 「履修ガイド2019(P.45)」 ・別添資料2 「2019年度 看護学科1年生オリエンテーション次第」 ・別添資料3 「履修計画表（1年生用）」 「履修計画表（2年生用）」 	<p>今後も、新入生と2年生を対象に新年度オリエンテーション時に説明会を実施し、アドバイザーグループの担当教員の指導の元、保健師教育課程を希望する学生に履修指導を行う。</p> <p>履行済</p>
設置計画履行状況 調 査 時 (30年)	・入学定員超過の改善に努めること。（人間総合学群心理学類）	指摘事項 (改善)	<p>・昨年度入学定員超過率が1.42倍であったのを、本年度1.18倍に是正した。</p> <p>履行済</p>	<p>・入学定員の是正に引き続き努めていく。</p>

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<看護学部 看護学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>設置の趣旨 11. 管理運営 (4) 看護学部におけるその他の委員会 看護学部の運営を円滑に行うために以下の小委員会を置く。(※：独自の委員会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 教務小委員会 ② 実習委員会 ※ ③ 学生小委員会 ④ 研究倫理小委員会 ⑤ 国家試験対策小委員会 ※ ⑥ 人権擁護（ハラスメントを含む）小委員会 ※ ⑦ 広報小委員会 ⑧ 図書小委員会 	<p>看護学部における円滑な管理運営を行えるよう、組織編成を見直し、下記のように各組織名を改めた。</p> <p>(4) 看護学部におけるその他の委員会 看護学部の運営を円滑に行うために、以下のように関連委員会を統合した看護学部部会を置く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①教務部会 (教務・学修支援/実習) ②学生支援部会 (学生支援・相談/ボランティア) ③図書部会 ④国家試験対策支援部会 ⑤就職・進学対策支援部会 ⑥国際交流部会 (交流/留学) ⑦人権擁護部会 (学生/教職員) ⑧研究支援部会 (研究倫理審査/研究紀要/研究企画) ⑨入試・広報部会 (入試/広報・大学案内/センター入試) ⑩将来構想部会 ⑪点検・評価・改善部会 ⑫諸規程部会 ⑬教育指針に関する検討部会 ⑭教員人事部会 <p>(別添資料4「看護学部の運営組織一覧」参照)</p>

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況（別添資料5「点検・評価・改善委員会規程」参照）</p> <p>本学では、教員の資質の維持、改善、向上を図るための組織として「点検・評価・改善委員会」を置いている。同委員会は、主として、以下の諸活動を行っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業アンケートの実施と自己評価報告書の作成依頼 2. 学内公開授業の運営 3. ファカルティ・ディベロップメントの実施 4. 教育研究業績記録の作成 <p>本委員会は、全学的な組織であり、学群長（人間総合学群）、各学部長（人間健康学部・看護学部）、各教授会より選ばれた教員、事務職員により構成される。</p>
--

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

1. 点検・評価・改善委員会は、基本的に、月の第3木曜日に開催している。

2 a. 平成29年度の開催状況を以下に記す。

- ・平成29年 4月20日 委員長、人文学部長、人間健康学部長、他教員6名、職員1名、以上10名出席
- ・平成29年 5月18日 委員長、人文学部長、人間健康学部長、他教員7名、職員1名、以上11名出席
- ・平成29年 6月15日 委員長、人文学部長、他教員6名、職員1名、以上9名出席
- ・平成29年10月19日 委員長、人文学部長、人間健康学部長、他教員6名、職員1名、以上10名出席
- ・平成29年11月16日 委員長、人文学部長、人間健康学部長、他教員6名、職員1名、以上10名出席
- ・平成29年12月21日 委員長、人文学部長、人間健康学部長、他教員6名、職員1名、以上10名出席
- ・平成30年 1月18日 委員長、人文学部長、人間健康学部長、他教員5名、職員1名、以上9名出席

2 b. 平成30年度の開催状況を以下に記す。

- ・平成30年 4月19日 委員長、学群長・学部長2名、他教員9名、職員2名、以上15名出席
- ・平成30年 5月17日 委員長、学群長・各学部2名、他教員9名、職員2名、以上15名出席
- ・平成30年 6月14日 委員長、学群長・学部長1名、他教員9名、職員2名、以上14名出席
- ・平成30年 7月19日 委員長、学群長・学部長1名、他教員10名、職員2名、以上15名出席
- ・平成30年 9月20日 委員長、学群長・学部長1名、他教員10名、職員1名、以上14名出席
- ・平成30年10月18日 委員長、学群長・学部長1名、他教員8名、職員2名、以上13名出席
- ・平成30年11月15日 委員長、学群長・学部長1名、他教員11名、職員2名、以上16名出席
- ・平成30年12月20日 委員長、学群長・学部長1名、他教員9名、職員2名、以上14名出席
- ・平成30年 1月17日 委員長、学群長・学部長1名、他教員8名、職員1名、以上12名出席

c 委員会の審議事項等

1. 自己点検・評価報告書に基づく改善計画の策定
2. 自己点検・評価報告書の作成と認証機関への提出
3. その他、教育・研究活動に関して委員会が必要と認めた事項

上記3の具体的内容として、授業アンケート、学内公開授業、卒業年次アンケート、FD・SD活動の実施、FD分科会の統括、研究費傾斜配分、外部機関開催のFD研修会案内等があげられる。

② 実施状況

a 実施内容

1. 学内公開授業
2. ファカルティ・ディベロップメント
3. 教育研究業績記録の作成

b 実施方法

1. 学内公開授業

本学では、前期と後期に各1回、2週間にわたり、専任教員を中心とした学内授業公開期間を設けている。参観者は、見学した授業に対する意見書を自己の名前を付して提出する。

2. ファカルティ・ディベロップメント

本学では、「点検・評価・改善委員会」が中心となり、教職員を対象としたFD研修会を、毎年1回もしくは2回実施する。FD研修会は、専任教員全員参加を原則とし、終了後の報告を義務付ける。さらに、学類、学科の枠をこえ、類似する専門分野の教員が集まり、よりよい授業への改善を目的に、独自のFD分科会（必修英語の研究・第二外国語分科会・ICT教育検討会等）を展開させている。平成29年度は15の分科会が、平成30年度は22の分科会が稼働中である。分科会の1年間の成果は、年度末に教育研究支援課に提出され、記録を保管している。

3. 教育研究業績記録の作成

本学では、全専任教員が教育研究業績を毎年度更新している。これは、所定の形式にのっとり、「教育実践上の主な業績」「作成した教科書・教材・参考書」「教育活動上特記すべき事項」「研究活動」「学会等社会における主な活動」等の項目をまとめ、年度末に提出するというものである。教員は、これを、教育内容の見直しを図るための一助として活用している。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

1 a. 学内公開授業（平成29年度実績）

前期

人文学部 専任教員64名、公開授業総数 156
人間健康学部 専任教員16名 公開授業総数 45
（参考 兼任講師8名参加 公開授業総数19）

後期

人文学部 専任教員64名、公開授業総数 132
人間健康学部 専任教員16名 公開授業総数 42
（参考 兼任講師4名参加 公開授業数 5）

1b. 学内公開授業（平成30年度実績）

前期（平成30年6月11日～6月23日）

人文学部・人間総合学群 公開授業総数 143 参観者総数 110

人間健康学部 公開授業総数 29 参観者総数 7

看護学部 公開授業数 0 参観者総数 0

（参考 兼任講師 公開授業総数 19 参観者総数 9）

後期（平成30年11月19日～12月1日）

人文学部・人間総合学群 公開授業総数 127 参観者総数 81

人間健康学部 公開授業総数 28 参観者総数 4

看護学部 公開授業総数 18 参観者総数 7

（参考 兼任講師 公開授業総数 11 参観者総数 8）

2a. ファカルティ・ディベロップメント（平成29年度実績）

1. 平成29年6月29日

研修会講演 五味洋一「大学における障害学生への合理的配慮を考える2」

参加状況 人文学部 専任教員64名中59名出席 5名（録画視聴） 全員アンケート提出

人間健康学部 専任教員16名中13名出席 3名（録画視聴） 全員アンケート提出

2. 平成30年2月15日

研修会講演 中谷隆文「変わりゆく高校の指導現場と大学の今後」

田上慧子「今日の高校における教育環境・学習内容と高大接続」

参加状況 人文学部 専任教員64名中58名出席 出席者全員アンケート提出

人間健康学部 専任教員16名中13名出席 出席者全員アンケート提出

3. 平成30年3月8日（2月15日不参加者がいたため再度同内容で開催、ただし講演者1名）

研修会講演 田上慧子「変わりゆく高校の指導現場と大学の今後」

田上慧子「今日の高校における教育環境・学習内容と高大接続」

参加状況 人文学部 専任教員不参加者6名中4名出席 出席者全員アンケート提出

人間健康学部 専任教員不参加者3名中1名出席 出席者全員アンケート提出

再開不参加者 3名中2名資料を読みアンケート提出、3名中1名体調不良により完全不参加

2b. ファカルティ・ディベロップメント（平成30年度実績）

1. 平成30年7月26日

研修会講演 芝田剛志「SNSリスク対策研修会」

参加状況 人文学部・人間総合学群 専任教員62名中55名出席、5名（録画視聴）、産休・休職2名

参加者全員アンケート提出

人間健康学部 専任教員16名中11名出席、5名（録画視聴） 参加者全員アンケート提出

看護学部 専任教員22名中22名出席 出席者全員アンケート提出

2. 平成31年12月13日、12月20日（同一内容）

研修会講演 富士原光洋「シラバス作成と学修指針」

参加状況 人文学部・人間総合学群 専任教員62名中59名出席、講演者1名、産休・休職2名

出席者全員アンケート提出

人間健康学部 専任教員16名中16名出席 アンケート提出15名（1名未提出）

看護学部 専任教員22名中20名出席、育休2名 出席者全員アンケート提出

3. 平成31年2月14日

研修会講演 小川誠・富士原光洋「アセスメント・ポリシーと学修成果の把握」

参加状況 人文学部・人間総合学群 専任教員62名中54名出席、講演者2名、産休・休職2名

校務欠席4名（録画視聴） 参加者全員アンケート提出

人間健康学部 専任教員16名中13名出席、2名（録画視聴）、1名欠席

参加者全員アンケート提出

看護学部 専任教員22名中18名出席、1名（録画視聴）、1名欠席、育休2名

参加者全員アンケート提出

【FD分科会（看護学教育に関する検討会）】

1. 平成30年9月6日（木）15：30～16：15

伝達講習：テーマ「看護におけるシミュレーション教育」

1) 「呼吸音聴診」セミナー参加報告（長嶋）

2) 「看護過程に活かすシナリオシミュレーション」研修参加報告（奥井）

参加者：安藤嘉則，小林小百合，豊田淑恵，堀良子，飯塚麻紀，奥井良子，長嶋祐子，山口明子，門脇淳子，菊地由美，近藤浩子，畠山卓也，松尾真規子，池田絹代，武田藍，松戸典文，横田益美，祖父江かおり，田中あゆみ，福森利智子，佐久間祐子（看護学部専任教員20名，職員1名）

2. 平成30年9月13日（木）13：50～14：30

伝達講習：テーマ「看護系大学教育等の動向」

1) 「専門職大学等の制度化」研修会参加報告（水野）

2) 「平成29年度課題別地域保健推進プラン報告会」参加報告（池田）

参加者：杵淵恵美子，小林小百合，關優美子，豊田淑恵，堀良子，飯塚麻紀，奥井良子，長嶋祐子，水野真希，山口明子，秋田由美，門脇淳子，菊地由美，畠山卓也，松尾真規子，池田絹代，武田藍，松戸典文，横田益美，祖父江かおり，田中あゆみ，福森利智子，永渕絵里香（看護学部専任教員22名，職員1名）

3. 平成31年1月6日（水）13：00～14：30

伝達講習：テーマ「看護系大学教育等の動向（2回目）」

- 1) 「IRを大学運営・看護教育にどう生かしていくか」研修会参加報告（長嶋・佐久間）
- 2) 「私立看護系大学におけるグローバルな人材育成—地域における活動を中心に」研修会参加報告（水野）
- 3) 「教員用看護師国家試験対策」研修会参加報告（畠山（卓））
- 4) 「看護基礎教育検討会を踏まえた在宅看護の今後と現場に及ぼす影響」学会参加報告（横田）

参加者：安藤嘉則，杵淵恵美子，小林小百合，關優美子，豊田淑恵，堀良子，飯塚麻紀，奥井良子，長嶋祐子，水野真希，山口明子，門脇淳子，菊地由美，近藤浩子，畠山卓也，松尾真規子，松戸典文，横田益美，祖父江かおり，田中あゆみ，福森利智子，佐久間祐子，永渕絵里香（看護学部専任教員21名，職員2名）

3. 教育研究業績記録の作成

平成29年度：人文学部、人間健康学部、専任教員全員提出。

平成30年度：人間総合学群、人文学部、人間健康学部、看護学部、専任教員全員提出。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

1. 学内公開授業

参観のあった授業担当者は、参観者からの意見書を他者評価として受け取り、授業改善に活用した。この制度は、参観者が自己の授業を改善するきっかけとしての役割も果たしている。

2. ファカルティ・ディベロップメント

平成29年度：前期研修会を通して、障害学生への支援の取り組み改善を促進させた。また、後期研修会を通して、本年度開設された人間総合学群の教育全般にわたる準備を図ることができた。

平成30年度：前期研修会を通して、学生のSNSリスク対策への取り組みができた。また、後期の2度の研修会を通して、シラバス、アセスメント・ポリシー等、教育の質保証にかかわる内容について、認識を深めることができた。

3. 教育研究業績記録の作成

教育研究業績記録を作成することで、自己の教育研究の見直しを図る機会を得た。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

本学では、前期と後期の終わりに各1回、全学的な授業アンケートを実施し、その結果に基づく自己評価報告書の作成を専任教員に義務づけている。アンケートの項目は、学生自身の学修状況を問う3項目を含め、合計13項目で構成される。教員の授業内容を問う10項目のうち、5段階評価で3.0に満たない項目がある授業に関しては、評価が低かった原因を分析したうえで、報告書に改善計画を付記しなければならない。令和元年度以降は原則として全授業に対して授業アンケートを行う予定である。

b 教員や学生への公開状況、方法等

授業アンケートの結果をとりまとめた報告書は、本学図書館で教職員と学生に公開している。随時閲覧が可能である。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（3）教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

1. 入学生確保

入学生確保に向けて看護学部看護学科紹介の大学案内冊子、リーフレットの作成、大学ホームページの更新、教職員の高校訪問、オープンキャンパスの開催などにおいて、教育の特色・内容とアドミッション・ポリシーを入学希望者へ周知するよう努めた。

平成30年度：本年度の入学試験結果は、入学志願者579名、入学者90名、定員充足率が112.5%であった。この数値は、看護学部の開学年度として十分な広報活動ができなかったが、入試センターの尽力や既存学部の知名度により、入学志願者の確保ができた。次年度も引き続き入学志願者を減少させないよう広報活動を充実させていく。なお、推薦入試での合格者に対しては、入学前課題として基礎的な共通科目（国語・数学）の冊子を作成し郵送した。また、小論文課題として課題図書5冊のうち2冊を選び、課題に沿って小論文作成し、提出後に添削して返却した。

令和元年度：本年度の入学志願者372名、入学者78名、定員充足率97.5%であった。その内訳は、推薦入学試験入学者35名、一般入学試験入学者29名、センター試験利用入学試験入学者14名であった。この結果から、前年度の入学志願者より大幅に減少したことについては、前年度の定員充足率を考慮し、合格者数の定員増とならないよう合格ラインの基準を高め設定した結果、入学試験結果上位の一般入学試験合格者の終盤辞退に繋がり、入学生確保の達成に至らなかった。

次年度に向けて、入学志願者数を増やすよう高校訪問やオープンキャンパスにおいて看護学部の魅力を発信できるように、看護学部教員総勢24名で積極的に広報活動に参加し、充実させていく。

なお、本年度の推薦入試合格者に対しては、前年度の入学前課題としての基礎的な共通科目（国語・数学）に新たに生物・化学の科目を追加提示した。この2教科は1年生で学修する「人体の構造と機能」の授業を理解しやすいようにするため導入を試みた。小論文課題としては前年度同様に課題図書5冊のうち2冊を選び、課題に沿って小論文作成し、提出後に添削して返却した。このことは入学前より事前に文章力の弱い学生を把握することができ、入学後に基礎ゼミやアドバイザー教員によるサポートや学修支援センターの活用を促すことに繋げていく。

2. 新入生オリエンテーション

平成30年・令和元年ともに4月2日～5日の4日間にわたり、新入生オリエンテーションをおこなった。内容は、本学の建学の精神、教育理念、看護学部の目的と特色、教育課程の編成、学生生活全般について説明するとともに、専任教員の紹介、看護学部実習館の施設見学を実施した。また、授業の準備として、現在の学力を再確認するための基礎学力テスト、習熟度別英語クラス分けテストを入学者全員に課した。その他、臨地実習の概要と抗体価検査の必要性、健康診断の実施、白衣の採寸、アドバイザーグループ教員との顔合わせおよび新入生歓迎会を実施した。

令和元年においては、新たに就任教員が増え総勢31名となったことで、新入生オリエンテーションと共にアドバイザーグループごとに分かれ、保護者との懇親会を実施した。保護者懇親会を入学式後に実施することで、アドバイザー教員にとっては保護者の考え方や、経済状況、学生の家庭内や高校までの学習姿勢・生活習慣や健康状況などの情報を入学時から把握することができ、大学生生活の一步を順調に踏み出せるよう学生一人一人への適切なサポート準備ができること、また保護者にとっては学修や生活支援を4年間通じて継続担当する教員と知り得たことによる安心感、いつでも相談できる関係づくりができたこと、さらに懇親会終了後に保護者同士がアドレシ交換などをおこなう様子を伺い知ることができたことで、教員と保護者だけでなく保護者間の関係づくりにも貢献できたことが示された。次年度も入学式終了後の新入生オリエンテーション実施と併せて保護者懇親会を充実させていく。

3. 初年次教育

平成30年度：看護学部では、本学の建学の精神に基づいた「仏教学Ⅰ」「人間と思想」を初年度に必修科目とした。また大学で学ぶことの意義を学習し各自が考え、疑問を持つことの重要性を学ぶために「基礎ゼミⅠ」「基礎ゼミⅡ」を初年次教育の柱として設定した。「基礎ゼミⅠ」はアカデミック・スキルのテキストを用い、大学で学ぶ意義、授業の受け方、講義ノートのとり方、本の読み方、資料の探し方、小論文の書き方、討論や口頭発表の仕方、グループ活動の進め方、大学の学修に必要な基本技術等を学ぶと同時に、大学生活になじみ、有意義に過ごせるようにするためにキャンパスツアーをゼミグループ（1グループ6名の15グループ編成）で一緒に行った。「基礎ゼミⅡ」では、研究の基礎となるよう自らの問題意識を持つようにし、その課題に向けて文献検索、まとめ、グループ内で発表・討論をおこない、最終各自がレポート作成とした。必修の英語は、読んで理解し、また書いて表現できるよう習熟度別の3クラスで編成した。初年次教育においては、選択科目として教養を身につけるための14科目を自由選択として取り入れた。本年度の選択科目の履修状況はバランスがとれたが、保健師教育課程における必修科目「情報と科学/情報処理」「統計学」「スポーツⅠ・Ⅱ」「憲法」の履修希望者は多く見られた。

基礎専門科目の『健康と医療』区分においては、「人体の構造と機能Ⅰ」「人体の構造と機能Ⅱ」「生化学」「臨床薬理学」「微生物学」「疾病と治療Ⅰ（内科総論・全身疾患）」を1年次から開講した。これは身体の構造と機能に関心を持てるように、また日常生活における清潔・不潔や感染予防の意義、薬の効用や服用の危険性など身近な内容から学べるような科目設定をした。本年度は学部先輩がいないことから授業の情報を得る機会がなく、また医学部・附属病院を持たず、近隣にも病院がないことなどから授業内容の理解不足と学ぶことの重要性や危機感が弱いことなど、定期試験の結果で明らかになった。一方、臨床施設からの医師たちの講義は臓器別で5・6名によるオムニバス形式で展開のため、十分な予・復習をしないと理解できないことがあり、専門領域の看護教員が授業に入ることで授業内容の確認ができた。この結果を踏まえ、初年次教育として専門基礎科目

担当の非常勤講師には、授業評価アンケートに学生からの自由記述も含めて郵送すると同時に電話、メール等で次年度へ向けての講義内容の検討をおこなった。

専門科目における『看護の基本』区分では、「看護学概論」「看護援助論」「生活援助技術」を講義と学内演習により看護学の早期関心へと導き、また専門基礎科目と結び付けて理解を容易にして学修できるよう1年次に設定した。本年度は基礎看護学実習Ⅰを実施のため、学生たちは看護の基本となる基礎的な知識確認と基本的な看護技術練習を学内で主体的に実施した。「看護援助論」と「生活援助技術」の学内演習においては、2つの演習科目のつながりをどのようにしたら初学者が関心をもち、自主的に演習に取り組むことができるかなど、教員間で試行錯誤しながら実施した。その結果、基礎看護学実習Ⅰでは、欠席学生はなく、のびのびと積極的に臨床実習に臨み、実習目的を達成できた。

令和元年：前年度と同様の初年次教育ではあるが、前年度の履修ガイダンスで1年次に履修可能な科目の単位修得を強調して指導したことで、2年次開講の選択科目を履修する学生に偏りが見られ、「文化人類学」の履修者がゼロであった。この結果は、教養科目を重要な位置づけとしている看護学部の設置趣旨を再認識し、次年度の履修ガイダンスでバランスのとれた無理のない履修計画を立てること、また一般教養の履修の必要性を十分説明し、丁寧に選択科目の履修計画が立てられるよう説明内容を再考していく。本年度は、看護専任教員の増加により、初年次教育をよりさらに充実して実施できるよう看護専任教員間での教育方法と評価の検討や、非常勤講師会の開催企画などを実施していく。

a 公表（予定）時期

- ・「自己点検・評価報告書」を令和2年5月に公表予定

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公表（令和2年5月を予定）

③ 認証評価を受ける計画

- ・令和元年度に大学基準協会の評価を受ける（別添資料6「2019年度大学評価に係る申請の受理について」参照）。

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

（5）情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 （ 有 ・ 無 ）

b 公表有の場合の公表（予定）時期 （ 令和元 年 8 月 1 日 ）

b 公表無の場合の特段の理由 （ 該当なし ）

（注）・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等 別添資料 1

「履修ガイド 2019 (P. 45)」抜粋

21. 取得可能な資格

(1) 看護師国家試験受験資格

本学科の卒業要件 128 単位を修得すること。

(2) 保健師国家試験受験資格

1. 本学科の卒業要件 128 単位を満たし、かつ以下の科目の履修を含め、137 単位を修得すること。

《保健師教育課程に関する選択必修科目》

[1 年次]

憲法	2 単位
統計学	1 単位
情報と科学 / 情報処理	1 単位
スポーツ I	1 単位
スポーツ II	1 単位

[2 年次]

健康教育学	2 単位
-------	------

[3 年次]

学校保健活動論	1 単位
産業保健活動論	1 単位

[4 年次]

疫学 / 保健統計 II	2 単位
公衆衛生看護学概論	1 単位
公衆衛生看護技術論	2 単位
公衆衛生看護管理論	1 単位
家族看護学	1 単位
学校・産業保健実習	2 単位
公衆衛生看護学実習	3 単位
災害看護学	2 単位

※留意事項

1、2 年次に配当される科目は、保健師教育課程を希望する学生は必ず履修すること。(詳細は別表 1-②を確認すること。)

2. 保健師教育課程の定員数、選抜の方法

- 1) 定員数は 10 名とする。
- 2) 選抜時期
2 年次後期
- 3) 選抜基準
 - ・ GPA2.0 以上であること。
 - ・ 2 年次までに開講されたすべての必修科目及び保健師教育課程に関する選択必修科目の単位を修得済みないし修得見込みであること。
- 4) 選抜方法
 - ・ 成績
 - ・ 授業中の態度や演習・実習の参加姿勢
 - ・ 小論文「保健師としての将来の夢」
 - ・ 面接
- 5) その他
保健師教育課程の選抜に関する詳細は 2 年後期に掲示等で周知する。

6 附帯事項等に対する履行状況等 別添資料 2

教員用

2019年度 看護学科1年生 オリエンテーション

I. 日 時・場 所：4月4日(木)9：00～12：00 9-105 教場
司会：教務部会長(堀)

内 容

1. 学部長挨拶 9：00～9：05(5分) 学部長挨拶
2. 教務関連事項 9：05～10：20(75分) (学科主任)
 - ・大学カリキュラム(実習に関する内容を含む)
 - ・単位履修の方法 ・時間割/進度表について 等
3. 保健師教育課程について 10：20～10：30(10分) (武澤)
10：30～10：40 休憩
4. 学生生活・ボランティア・インターンシップについて 10：40～11：15(35分)
(学生支援部会・ボランティア担当・入試広報：奥井・松尾・長嶋)
 - ・大学生活について、緊急時・病欠時の対応について
 - ・アドバイザー制度、「フェイスシート」「学習・生活調査票」の配布
 - ・保険「will」について
 - ・健康診断受検、抗体価検査結果の保管について
 - ・防犯、犯罪被害予防について
 - ・グッドスタートプログラム、大学行事への参加について
 - ・ボランティア窓口、手続きについて
 - ・インターンシップ募集 等
5. 学修支援センターについて 11：15～11：30(15分) (学修支援分科会：水野)
 - ・基礎学力テストとその後の課題提出について
 - ・開講講座スケジュールについて
6. 9号館(実習館)の利用等について 11：30～11：50(20分) (看護学部事務)
7. 本日午後の予定について・ロッカー確認 11：50～12：00(10分)

II. 日 時・場 所：4月4日(木) 13：00～13：40 9-105、9-401、
13：40～16：00 実習室2・3、体育館、2-210

1. 13：00～13：40 ①ポータルサイトの利用法(9-401)：(事務) } 2グループに分かれ①→②
②実習着採寸について(9-105)：実習分科会 } あるいは②→①の順で。
2. 13：40～16：00 ③実習着採寸(実習室2・3)：実習分科会 }
④健康診断(受付15：30まで)：体育館 } 4グループに分かれ順に。
⑤教科書受け取り(2-210) }

6 附帯事項等に対する履行状況等 別添資料3

V-2. 履修計画表

学籍番号		氏名		アドバイザー印	
------	--	----	--	---------	--

1年次の履修科目 (* 看護師・保健師国家試験受験資格取得希望者)

2019年度 前期 履修計画

	1時限目	2時限目	3時限目	4時限目	5時限目
月	統計学		情報と科学/情報処理-a	情報と科学/情報処理-b	
火	人間と思想	基礎ゼミ I	看護学概論(前半) 看護援助論(後半)	生活援助技術	生活援助技術
水	仏教学 I	人体の構造と機能 I			
木		憲法	微生物学	スポーツ I	
金	英語 I -a	英語 I -b/c			
土					

2019年度 後期 履修計画

	1時限目	2時限目	3時限目	4時限目	5時限目
月					
火		地域看護学概論		スポーツ II	
水	臨床薬理学	生化学	看護援助論	生活援助技術	生活援助技術
木	人体の構造と機能 II	基礎ゼミ II	疾病と治療 I	疾病と治療 I	疾病と治療 I
金	英語 II -a	英語 II -b/c		疾病と治療 I	疾病と治療 I
土					
集中講義	基礎看護学実習 I				

履修単位数確認表(看護師・保健師国家試験受験資格要件)

		単位数				卒業要件		
		必修		選択		必修	選択	合計
		修得	今年度履修	修得	今年度履修			
教養教育科目	教養科目	/	7	/		9単位	4単位以上	23単位
	コミュニケーションの 理解と技能	/	3	/		6単位		
	スポーツと健康	/	2	/		2単位		
	基礎ゼミ	/	2	/		2単位		
	小 計		14			19単位	4単位以上	
専門基礎科目			11			31単位		31単位以上
専門科目			7			83単位		83単位以上
総 計			32			133単位	4単位以上	137単位以上

6 附帯事項等に対する履行状況等 別添資料3

V-2. 履修計画表

学籍番号		氏名		アドバイザー印	
------	--	----	--	---------	--

2年次の履修科目 (*看護師・保健師国家試験受験資格取得希望者)

2019年度 前期 履修計画

	1時限目	2時限目	3時限目	4時限目	5時限目
月			診療・治療援助技術	診療・治療援助技術	
火			老年看護学Ⅰ	保健福祉行政論	
水		看護理論	感染看護学	成人看護学Ⅰ	疾病と治療Ⅳ
木	フィジカルアセスメント	フィジカルアセスメント	臨床栄養学	疾病と治療Ⅴ	
金	英語Ⅲ-a/c	英語Ⅲ-b	言語表現演習Ⅰ-a 言語表現演習Ⅰ-b	臨床病態学	臨床病態学
土	疾病と治療Ⅱ	疾病と治療Ⅱ			
集中講義	老年看護学実習Ⅰ				

2019年度 後期 履修計画

	1時限目	2時限目	3時限目	4時限目	5時限目
月		小児看護学Ⅰ	疫学/保健統計Ⅰ-a	疫学/保健統計Ⅰ-b	在宅看護学Ⅰ
火	看護過程	看護過程	生命倫理と法		
水	疾病と治療Ⅵ	疾病と治療Ⅵ	精神看護学Ⅰ	疾病と治療Ⅲ	疾病と治療Ⅲ
木		母性看護学Ⅰ	健康教育学		
金	英語Ⅳ-a	英語Ⅳ-b		成人看護学Ⅱ	成人看護学Ⅱ
土					
集中講義	基礎看護学実習Ⅱ				

履修単位数確認表(看護師・保健師国家試験受験資格要件)

		単位数				卒業要件		
		必修		選択		必修	選択	合計
		修得	今年度履修	修得	今年度履修			
教養教育科目	教養科目		2			9単位	4単位以上	23単位
	コミュニケーションの理解と技能		3			6単位		
	スポーツと健康					2単位		
	基礎ゼミ					2単位		
	小計		5			19単位	4単位以上	
専門基礎科目	健康と生活		6			10単位		
	健康と医療		10			21単位		
	小計		16			31単位		31単位以上
専門科目	看護の基本		5			10単位		
	ライフステージと看護		10			18単位		
	看護の統合		5			21単位		
	臨地実習		3			28単位		
	看護の発展					6単位		
	小計		23			83単位		83単位以上
総計		44			133単位	4単位以上	137単位以上	

7 その他全般的事項 別添資料4

看護学部 運営組織一覽

*ゴシック◎大学の委員会委員(青字) *黄色マーク:教員数の不足 *赤字:2019・20年度着任予定者

大学組織 (部会名)	開催日(H29)	分科会・部会長	定数	9 一般教養(1)	1 基礎看護(4)	2 母性(4)	3 小児(4)	4 成人(7)	5 老年(4)	6 精神(3)	7 在宅(3)	8 公衆衛生(3)	看護事務
大学組織 (部会名)			32										
理事会	定例			安藤嘉則		豊田淑恵							
評議会	定例			安藤嘉則		豊田淑恵							
執行部会	第1水曜			安藤嘉則	堀・安藤 菊地・門脇	豊田・柁淵 水野・高山	山口・秋田 高橋・弓気田	飯塚・奥井 長嶋・近藤 風岡・小林優 上野	小林・武田 松戸・村田	島山卓・松尾 武澤 大高(20年度)	関・横田 島山	池田 武澤	
教授会	第2木曜		18年22 19年31 20年32+										
2 学科会議	第1木曜												佐久間祐子 永瀧絵里香
3 学科運営に関する会議	教授2名領域は1年交代		8	安藤嘉則	堀良子 (2020年度交代)	柁淵恵美子 柁淵恵美子	高橋泉	風岡たま代 (2021年度交代)	◎小林小百合	関優美子 (2020年度交代)			佐久間 永瀧
4 予算調整検討会議		山口	6	安藤嘉則	◎堀良子	柁淵恵美子 ◎水野真希	◎山口明子	風岡たま代	小林小百合				永瀧絵里香
5 教務委員会 (教務)	月1回	堀	12	安藤嘉則	◎堀良子	柁淵恵美子 ◎水野真希	高橋泉	◎飯塚麻紀 風岡たま代	◎小林小百合	松尾真規子	島山とも子	武澤千尋	
6 学生支援委員会 大学・短大ボランティア委員会 (学生支援)	月1回	奥井	12	安藤嘉則	菊地由美	◎豊田淑恵 高山奈美	弓気田美香	◎奥井良子 上野桂 近藤浩子	村田友紀子	◎松尾真規子 (ボランティア)	関優美子	池田絹代	
7 図書委員会(図書)	不定期	飯塚	3		菊地由美		秋田由美	◎飯塚麻紀					
8 就職委員会 (国家試験対策支援) (就職・進学対策支援)	定期 随時	山口	6 2 2		菊地由美	高山奈美 (国試・進学)	◎山口明子	長嶋祐子	松戸典文	島山卓也	◎関優美子(就職)	武澤千尋	
9 国際交流委員会 (国際交流)	年1回	豊田	3		門脇淳子◎	◎豊田淑恵			村田友紀子				*wm
10 (人権擁護)	随時	豊田	6	安藤嘉則		柁淵恵美子* 豊田淑恵*		奥井良子 風岡たま代	小林小百合		島山とも子		*兼務
11 研究紀要委員会 教育研究企画委員会 (研究支援)	定期 年1回	柁淵	4 5 1	安藤嘉則		◎柁淵恵美子 (紀要)	秋田由美 ◎高橋泉	小林優子	松戸典文 小林小百合	島山卓也			永瀧
12 入試委員会 大学入試センター試験実施委員会 広報委員会 (入試・広報)	定期 年1回	長嶋 奥井	6 12	安藤嘉則	安藤郁子	豊田淑恵 高山奈美	山口明子 弓気田美香	◎長嶋祐子* ◎奥井良子 上野桂	◎近藤浩子 ◎松戸典文*	◎小林小百合	横田益美 池田絹代		◎兼務
13 教授会書記	2019年度担当 2019年度担当	L	4 4		山口明子A 秋田由美A・L			◎近藤浩子	松戸典文A 武田藍P	松尾真規子P・L	関優美子P	池田絹代P	
14 親睦会幹事	年1回 年1回	大学 学部						近藤浩子A		2019年度 長澤	2018年度 横田		
15 (将来構想)	定期 学部:完成年度以降の教育課程	島山 小林優	1 10	安藤嘉則	門脇淳子	◎水野真希	◎弓気田美香	◎小林優子	◎小林小百合 武田藍	◎島山卓也	横田益美	◎武澤千尋	◎まじめ担 当
16 点検・評価・改善委員会 (点検・評価・改善)	定期	飯塚	4	安藤嘉則		豊田淑恵	高橋泉	◎飯塚麻紀			横田益美*		*wm
17 諸規程委員会(諸規程)	年1回	理事	5	安藤嘉則	安藤郁子	◎豊田淑恵		◎飯塚麻紀	◎小林小百合		横田益美*		
18 教育指針に関する検討委員会 (教育指針に関する検討)	随時		4	安藤嘉則		豊田淑恵 柁淵恵美子			◎小林小百合		島山とも子		
19 教員人事委員会(教員人事)	随時		3	安藤嘉則		◎豊田淑恵			◎小林小百合				

7 その他全般的事項 別添資料5

駒沢女子大学 点検・評価・改善委員会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、学校教育法第69条の3及び大学設置基準第2条の規定に基づき、駒沢女子大学の自己点検・評価・改善を行うための、「駒沢女子大学点検・評価・改善委員会」（以下「委員会」という。）に関する事項について定める。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に定める事項について、審議する。

- (1) 自己点検・評価報告書の作成と認証機関への提出
- (2) 自己点検・評価報告書に基づく改善計画の策定
- (3) その他、教育・研究活動に関して委員会が必要と認めた事項

(担当)

第3条 前条の事項を円滑に処理するため、委員会に次の担当を置く。

- (1) 教育
- (2) 研究
- (3) 施設・設備
- (4) 管理・運営
- (5) 入学・就職
- (6) 総括

2 各担当の責任者は委員長が指名する。

(構成)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる委員によって構成する。

- (1) 学群長及び各学部長
- (2) 削除
- (3) 各教授会より選出された若干名の委員

2 前項第1号及び第2号の委員はその職にある期間を任期とする。

3 第1項第3号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

4 委員の互選により委員長を選出する。

(事務職員の参画)

第4条の2 委員会の審議に関連する業務を担当する部門の事務職員1名以上を委員とする。

(会議)

第5条 委員会は、委員長が必要に応じこれを招集し、会議の議長となる。

2 委員の3分の1以上の要請があったとき、委員長は委員会を招集しなければならない。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名する者がこれに代わる。

(定足数)

第6条 委員会は、3分の2の委員の出席をもって成立する。

(意見聴取)

第7条 委員会はその職務に関係のある者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(議決)

第8条 委員会は、出席者の過半数により、議決する。

2 可否同数のときは、議長の決するところによる。

(事務)

第9条 委員会の事務は、教育・研究支援室が行う。

(改廃)

第10条 この規程の改廃は、教授会が行う。

附 則 この規程は、平成5年4月1日から施行する。

附 則 この規程は、平成14年10月3日に改正し、平成15年4月1日から施行する。

附 則 この規程は、「駒沢女子大学自己評価委員会規程」を全面的に改正したものとして、平成16年7月1日から施行する。

附 則 この規程は、平成21年2月23日に改正し、平成21年4月1日から施行する。

附 則 この規程は、平成25年12月13日から施行する。

附 則 この規程は、平成30年4月1日から施行する。

7 その他全般的事項 別添資料6

30 大基評第 182 号

平成 30 年 12 月 14 日

駒沢女子大学

学長 光 田 督 良 殿

公益財団法人 大学基準協会

事務局長 工 藤 潤



2019 年度大学評価に係る申請の受理について

拝啓 寒冷の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は、本協会の事業推進のため、種々ご協力を賜り深謝申し上げます。

標記に関し、先般、貴大学より提出されました「大学評価申請書」を受理いたしました。つきましては、大学評価ハンドブック及び同封の「評価資料の準備チェックシート」に従って、提出が必要となる評価資料一式のご準備をお進めいただき、来年 4 月 30 日（火）必着でご提出くださるようお願い申し上げます。

なお、提出後の評価資料の差し替えは、原則として出来ませんので、内容等を十分に確認した上でご提出をお願いいたします。

敬 具

<連絡先>

評価事業部 評価第 1 課

TEL : 03-5228-2200 E-MAIL : daigaku@juua.or.jp

